

困難な問題を抱える女性への支援に向けて

# 山梨県女性福祉サポートアンケート調査 結果報告書

令和6年2月22日

山梨県子育て支援局子ども福祉課

# 目次

I. 調査概要	3
II. 調査結果	
1. 回答者の属性	4
① 年齢	4
② 就労状況の有無	4
③ 結婚の有無	5
④ 子どもの有無等	5
⑤ 家族構成	6
2. 収入の状況	8
① 世帯年収	8
② 現在の暮らしについての感じ方	8
3. 気軽に話ができる環境	10
① 家族との状況	10
② 友人・知人との状況	11
③ 学校、職場での状況	12
④ 住んでいる地域、近所での状況	13
⑤ 行政機関や支援団体での状況	14
⑥ SNSやメールでのつながりの状況	15
4. 悩みや困りごとの相談機関、専門家の認知度	16
5. 生きづらさの経験	17
① 「生きづらさ」の有無	17
② 「生きづらさ」を感じた理由	19
③ 「生きづらさ」を克服・解消するために必要なもの	21
6. 学生時代の状況	22

7. “過去” の悩みや困りごと	23
① 過去の悩みや困りごとの有無	23
② 過去の悩みや困りごとの内容	24
③ 過去の悩みや困りごとを解決するためにとった行動	26
8. “現在” の悩みや困りごと	30
① 現在の悩みや困りごとの有無	30
② 現在の悩みや困りごとの内容	32
③ 現在の悩みや困りごとを解決するためにとった行動	34
9. 悩みや困りごとの解決方法	39
① 相談方法について	39
② 支援の方法について	40
10. 教育・啓発の推進	42
① 推進の必要性	42
② 教育・啓発すべき項目	43
11. その他（自由記述）	44
① 10代の方の回答	44
② 20代の方の回答	44
③ 30代の方の回答	45
④ 40代の方の回答	46
⑤ 50代の方の回答	47
⑥ 60代以上の方の回答	48

# I. 調査概要

## 1. 調査目的

---

令和6年4月1日から施行される「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」の山梨県基本計画を策定するにあたり、県内女性が抱えている悩みや困りごとや希望する支援策を把握し、今後の女性支援施策を展開するための調査を行いました。

## 2. 調査設計

---

- (1) 調査地域 山梨県全域（全27市町村対象）
- (2) 調査対象 山梨県在住の15歳以上（高校生以上）の女性
- (3) 標本数 1,500人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送調査
- (6) 調査期間 令和5年9月22日(金)～令和5年10月13日(金)

## 3. 回収結果

---

- (1) 発送数 1,500人（100.0%）
- (2) 回収数 615人（41.0%）
- (3) 有効回収数 615人（41.0%）

## 4. 報告書の注意事項

---

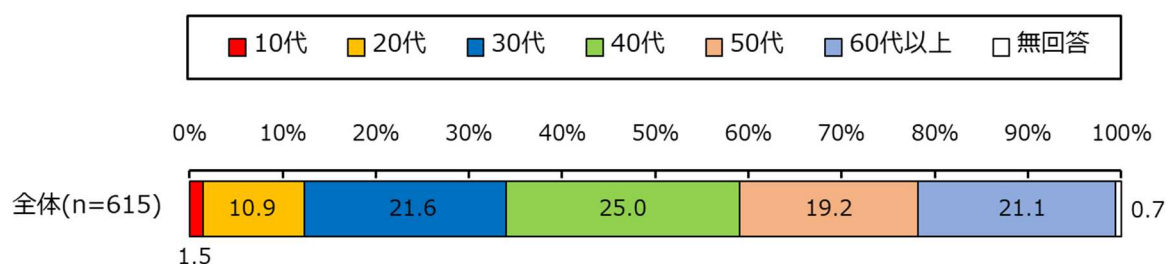
- ①結果は百分率で表示し、小数点第2位を四捨五入しています。このため百分率の合計が100%にならないことがありますので御承知おきください。
- ②数値やグラフ中の「n」は回答者総数を示し、回答比率はこれを100%として算出しています。
- ③複数回答の設問の結果では、百分率の合計が100%を超える場合があります。
- ④回答者の属性について、「回答がなかった」または「特定できない」回答者の回答内容は、「無回答」として整理し、各調査項目の全体の集計結果に反映させました。

## II. 調査結果

### 1. 回答者の属性

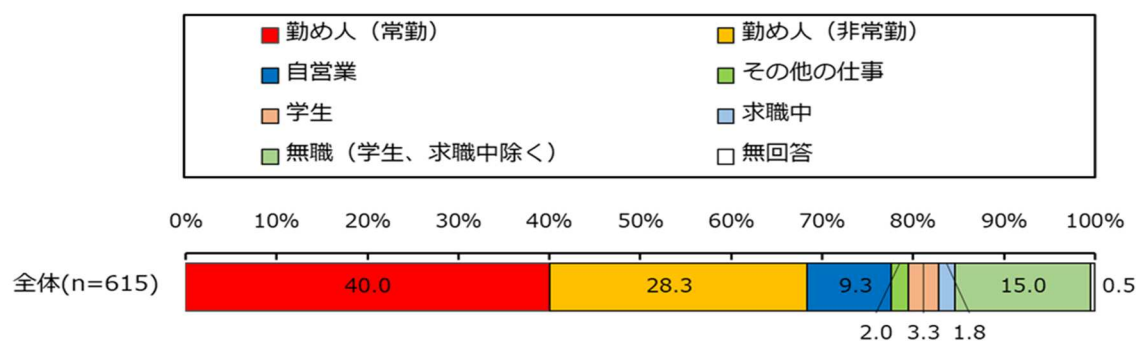
#### 1 年齢

年齢は、「40代(25.0%)」、「30代(21.6%)」の順に高いが、30代から60代以上までいずれの年代も全体の20%前後となっています。なお、平均年齢は46.7歳です。



#### 2 就労状況の有無

就労者(「勤め人(常勤。求職中含む)」、「勤め人(非常勤、パートタイム、アルバイトなど、求職中含む)」、「自営業(事業の経営者、家業の手伝い、内職)」、「その他の仕事」の合計)が79.6%、未就労者(「学生」、「求職中」、「無職」)の合計が20.1%となっています。



また、就労者79.6%のうち、「勤め人(常勤)」は40.0%、それ以外の就労者は39.6%となっています。

年代別にみると、20代から50代まで就労者が80%を占め、そのうち、20代から40代の「勤め人(常勤)」の割合は、年代が上がるにしたがってその割合は低く、「勤め人(非常勤)」の割合が高い一方で、60代以上は「勤め人(非常勤)」の割合が、「勤め人(常勤)」の割合を上回っています(次ページ表1)。

表1 回答者の年代別就労状況

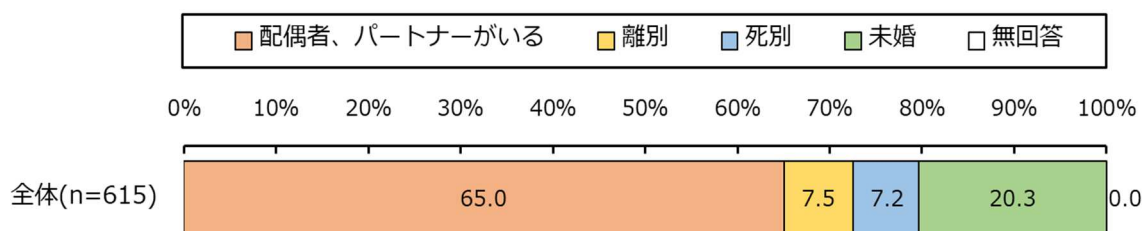
n=615 単位:%

	勤め人 (常勤)	勤め人 (非常勤)	自営業	その他の 仕事	学生	求職中	無職	無回答
全体	40.0	28.3	9.3	2.0	3.3	1.8	15.0	0.5
10代	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
20代	53.7	20.9	4.5	0.0	16.4	0.0	4.5	0.0
30代	53.4	30.1	1.5	0.8	0.0	2.3	12.0	0.0
40代	42.9	31.8	11.7	0.6	0.0	1.3	11.7	0.0
50代	42.4	29.7	11.9	0.8	0.0	3.4	10.2	1.7
60代以上	17.7	25.4	15.4	6.9	0.0	1.5	32.3	0.8
無回答	0.0	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0

注) ①勤め人(常勤)には、休職中の者を含める。  
 ②勤め人(非常勤)は、パートタイム、アルバイトなどをいい、休職中の者を含める。  
 ③自営業は、主に事業の経営者、家業の手伝い、内職の者をいう。  
 ④無職には、学生や休職中の者は含まれない。

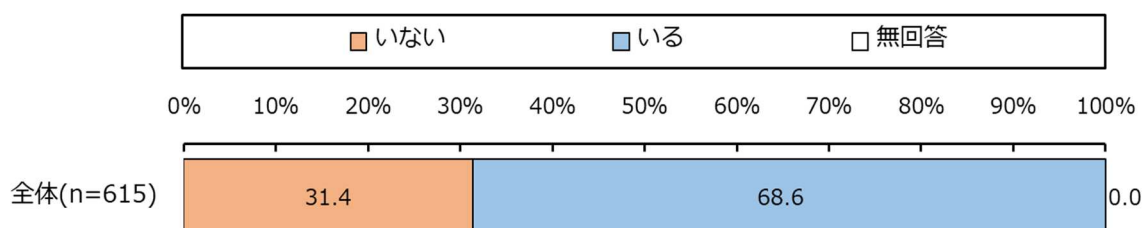
### 3 結婚の有無

「配偶者、パートナーがいる」が65.0%最も高く、未婚は20.3%となっています。

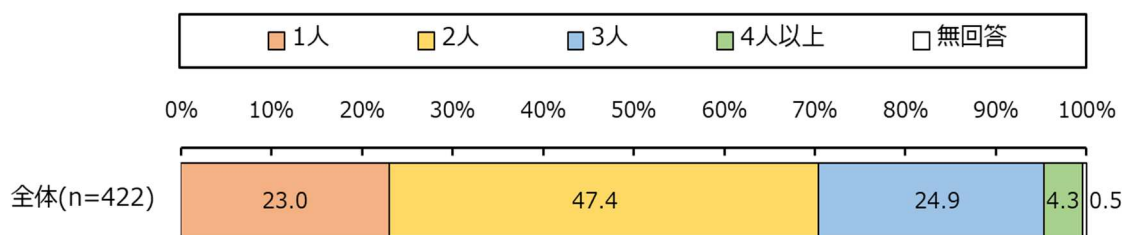


### 4 子どもの有無等

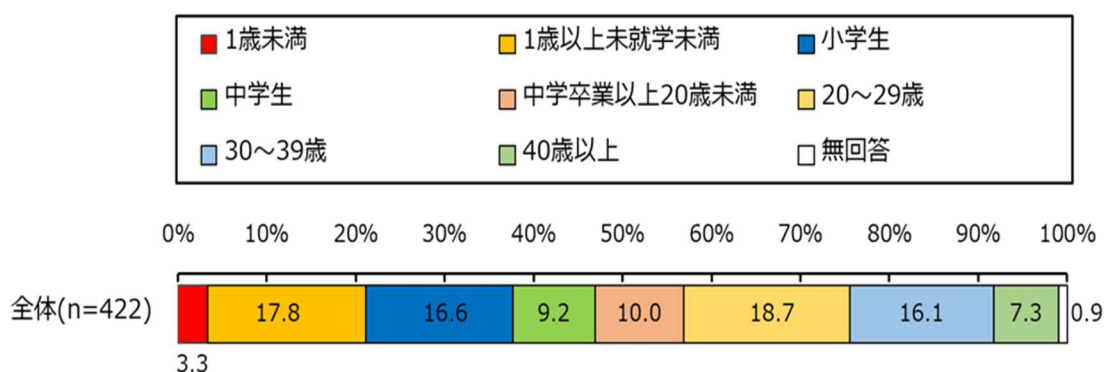
(1) 「いる」が68.6%、「いない」が31.4%となっています。



(2) 子どものいる家庭における子どもの人数は、「2人(47.4%)」が最も高く、「3人(24.9%)」、「1人(23.0%)」と続いています。なお、平均は2.09人です。



(3) 子どものいる家庭において、末子の年齢は「20歳～29歳(18.7%)」が最も高く、「1歳以上未就学未満(17.8%)」、「小学生(16.6%)」となっています。



## 5 家族構成

家族構成は、核家族(「夫婦のみの世帯」、「夫婦と子どもの世帯」、「母親と子どもの世帯」)が64.9%を占めています。なお、「単身世帯」は10.9%となっています。

年代別(表2)にみると、10代から50代まで「夫婦と子どもの世帯」の割合が最も高くなっていますが、60代以上では「夫婦のみの世帯」「単身世帯」が他の年代に比べて高い状況となっています。

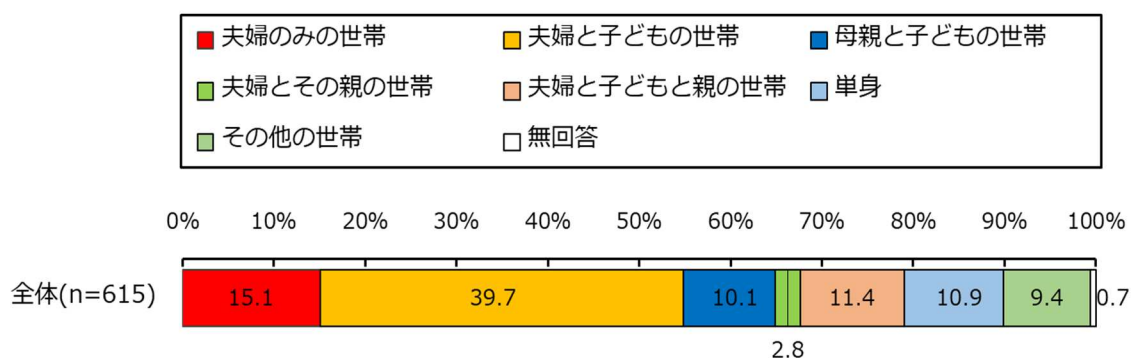


表2 年代別の家族構成

n=615 単位:%

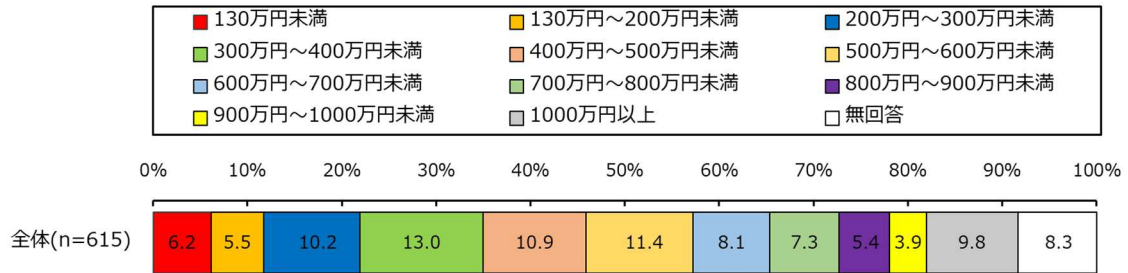
		夫婦のみの世帯	夫婦と子どもの世帯	母親と子どもの世帯	夫婦とその親の世帯	夫婦と子どもと親の世帯	単身	その他の世帯	無回答
全体		15.1	39.7	10.1	2.8	11.4	10.9	9.4	0.7
年代	10代	0.0	77.8	11.1	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0
	20代	13.4	41.8	6.0	1.5	11.9	10.4	13.4	1.5
	30代	13.5	51.9	8.3	0.0	10.5	6.8	7.5	1.5
	40代	7.1	44.8	14.3	2.6	16.2	6.5	8.4	0.0
	50代	17.8	37.3	5.1	5.1	14.4	7.6	11.9	0.8
	60代以上	25.4	19.2	13.8	4.6	3.8	24.6	8.5	0.0
	無回答	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0



## 2. 収入の状況

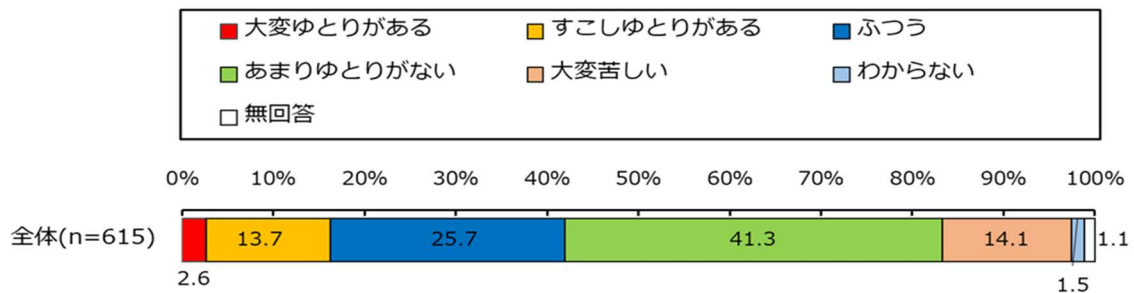
### 1 世帯年収

世帯年収は、「300万円～400万円未満(13.0%)」が最も高く、「500万円～600万円未満(11.4%)」、「400万円～500万円未満(10.9%)」、「200万円～300万円未満(10.2%)」と続いています。



### 2 現在の暮らしについての感じ方

現在の暮らしについては、全体で「あまりゆとりがない(41.3%)」が最も高く、続いて「ふつう(25.7%)」、「大変苦しい(14.1%)」となっています。



○年代別にみる(次ページ表3)と、20代から60代以上では「あまりゆとりがない」が最も高く、30%台後半から40%台前半を占めています。

○子どもの有無に関連してみますと、子どもの有無にかかわらず「あまりゆとりがない」が40%程度と最も高く、続いて「ふつう」が25%程度となっています。

○家族構成別にみると、すべての世帯で「あまりゆとりがない」が最も高く30%以上を占めている中、母親と子どもの世帯では「あまりゆとりがない」が61.3%と非常に高くなっています。

○世帯の年収別にみると、130万円未満では「大変苦しい」が、130万円～200万円未満から300万円～400万円未満では「あまりゆとりがない」が半数を占めています。年収が500万円を超えると、「すこしゆとりがある」「ふつう」「あまりゆとりがない」が分散しています。

表3 現在の暮らしについての感じ方

n=615 単位:%

		大変ゆとりがある	すこしゆとりがある	ふつう	あまりゆとりがない	大変苦しい	わからない	無回答
全体		2.6	13.7	25.7	41.3	14.1	1.5	1.1
年代	10代	11.1	33.3	22.2	22.2	11.1	0.0	0.0
	20代	7.5	13.4	23.9	43.3	9.0	3.0	0.0
	30代	1.5	16.5	23.3	44.4	11.3	1.5	1.5
	40代	1.9	14.3	23.4	41.6	17.5	0.6	0.6
	50代	2.5	11.9	25.4	41.5	13.6	2.5	2.5
	60代以上	1.5	10.8	33.1	37.7	16.2	0.0	0.8
	無回答	0.0	0.0	0.0	50.0	25.0	25.0	0.0
子ども	いない	4.7	16.6	25.9	37.3	13.0	2.6	0.0
	いる	1.7	12.3	25.6	43.1	14.7	0.9	1.7
家族構成	夫婦のみの世帯	4.3	18.3	34.4	38.7	1.1	3.2	0.0
	夫婦と子どもの世帯	2.9	13.1	25.8	43.4	11.9	1.2	1.6
	母親と子どもの世帯	1.6	3.2	14.5	61.3	19.4	0.0	0.0
	夫婦とその親の世帯	5.9	17.6	29.4	41.2	5.9	0.0	0.0
	夫婦と子どもと親の世帯	1.4	22.9	22.9	35.7	14.3	0.0	2.9
	単身	1.5	11.9	23.9	32.8	25.4	3.0	1.5
	その他	1.7	8.6	29.3	32.8	25.9	1.7	0.0
	無回答	0.0	25.0	0.0	25.0	50.0	0.0	0.0
世帯年収	130万円未満	0.0	0.0	15.8	23.7	55.3	5.3	0.0
	130万円～200万円未満	0.0	5.9	11.8	55.9	23.5	2.9	0.0
	200万円～300万円未満	1.6	3.2	15.9	57.1	22.2	0.0	0.0
	300万円～400万円未満	1.3	5.0	18.8	61.3	12.5	1.3	0.0
	400万円～500万円未満	0.0	10.4	29.9	43.3	14.9	1.5	0.0
	500万円～600万円未満	1.4	14.3	40.0	38.6	5.7	0.0	0.0
	600万円～700万円未満	8.0	18.0	26.0	40.0	6.0	0.0	2.0
	700万円～800万円未満	6.7	15.6	35.6	35.6	6.7	0.0	0.0
	800万円～900万円未満	3.0	36.4	18.2	27.3	12.1	3.0	0.0
	900万円～1000万円未満	4.2	33.3	29.2	25.0	8.3	0.0	0.0
	1000万円以上	6.7	30.0	36.7	21.7	3.3	0.0	1.7
	無回答	0.0	9.8	21.6	41.2	11.8	5.9	9.8

### 3. 気軽に話ができる環境

#### 1 家族との状況

家族に「気軽に話せる人がいる」が87.6%、「気軽に話せる人がいない」は8.8%となっています。年代別にみても、すべての年代で「気軽に話せる人がいる」が80%を超えています（表4）。

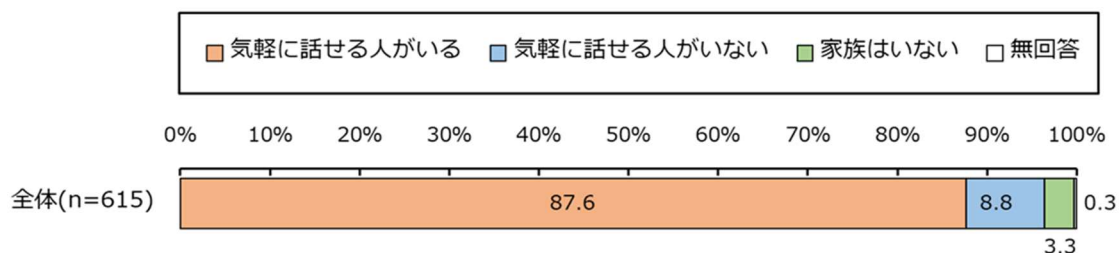


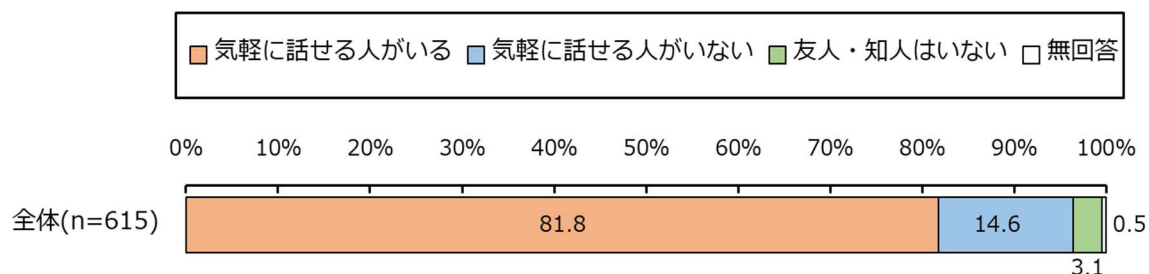
表4 家族内で気軽に話ができる人の有無

n=615 単位:%

		いる	いない	家族はいない	無回答
全体		87.6	8.8	3.3	0.3
年代	10代	88.9	11.1	0.0	0.0
	20代	95.5	3.0	1.5	0.0
	30代	88.0	9.8	2.3	0.0
	40代	90.3	7.8	1.3	0.6
	50代	85.6	11.0	3.4	0.0
	60代以上	82.3	9.2	7.7	0.8
	無回答	75.0	25.0	0.0	0.0

## 2 友人・知人との状況

友人・知人に「気軽に話せる人がある」が81.8%を占め、「気軽に話せる人がいない」は14.6%となっています。



また、年代別（表5）にみると、「気軽に話せる人がいない」では、50代が20.3%と、他の年代に比べて割合が高く、また、「友人・知人はいない」では、40代が5.2%、60代以上が4.6%と、他の年代に比べて高くなっています。

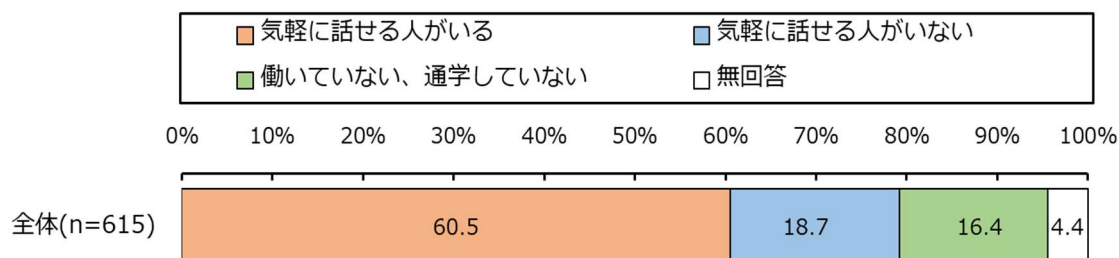
表5 友人・知人と気軽に話ができる人の有無

n=615 単位:%

		話せる人がある	話せる人がいない	友人・知人はいない	無回答
全体		81.8	14.6	3.1	0.5
年代	10代	100.0	0.0	0.0	0.0
	20代	89.6	9.0	1.5	0.0
	30代	83.5	14.3	2.3	0.0
	40代	79.9	14.3	5.2	0.6
	50代	78.8	20.3	0.8	0.0
	60代以上	80.0	13.8	4.6	1.5
	無回答	75.0	25.0	0.0	0.0

### 3 学校、職場での状況

職場・学校に「気軽に話せる人がいる」が60.5%と半数を超え、「気軽に話せる人がいない」は18.7%となっています。



また、年代別（表6）にみると、「気軽に話せる人がいる」では、10代から20代は70%台、30代から50代では60%台であるのに対し、60代以上では40%台まで低下しています。

同時に、「気軽に話せる人がいない」では、10代と40代が20%台となり、他の年代と比べて高くなっています。

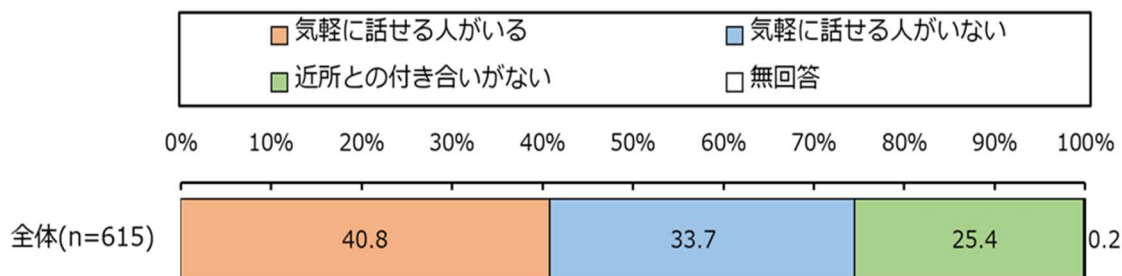
なお、「働いていない、通学していない」は、年代が上がるにつれ割合が高くなっているため、特に60代以上の「気軽に話せる人がいる」の割合が他の年代に比べて低い割合となっていることに、就労状況の変化も影響していることが伺えます。

表6 職場・学校で気軽に話ができる人の有無

		n=615 単位:%			
		話せる人がいる	話せる人がいない	働いていない・通学していない	無回答
全体		60.5	18.7	16.4	4.4
年代	10代	77.8	22.2	0.0	0.0
	20代	74.6	19.4	6.0	0.0
	30代	66.2	18.8	12.8	2.3
	40代	61.0	24.7	13.6	0.6
	50代	65.3	19.5	13.6	1.7
	60代以上	41.5	10.8	31.5	16.2
	無回答	50.0	0.0	50.0	0.0

#### 4 住んでいる地域、近所での状況

住んでいる地域、近所で「気軽に話せる人がいる」が40.8%、「気軽に話せる人がいない」は33.7%、「近所との付き合いがない」は25.4%となっています。



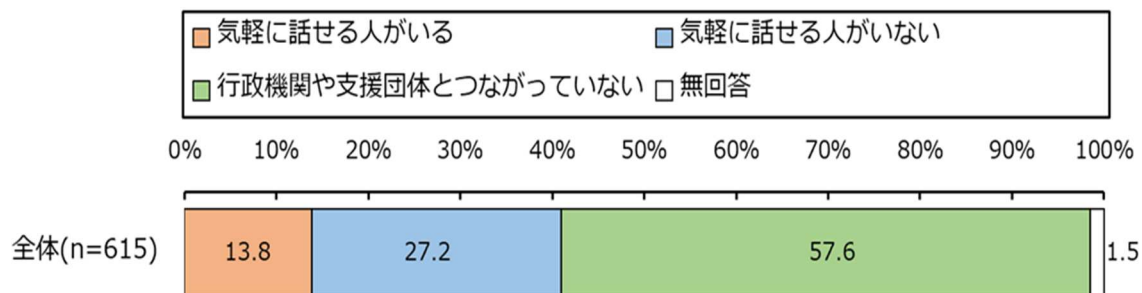
また、年代別（表7）にみると、「気軽に話せる人がいる」で最も高いのは、60代以上の58.5%。年代が低いほど「近所との付き合いがない」の割合が高く、10代は55.6%と半数を占めています。20代と30代では「近所との付き合いがない」「気軽に話せる人がいない」「気軽に話せる人がいる」の順に高い一方で、40代以上では「気軽に話せる人がいる」「気軽に話せる人がいない」「近所との付き合いがない」の順となっています。

表7 住んでいる地域、近所で気軽に話ができる人の有無

		n=615 単位:%			
		話せる人がいる	話せる人がいない	近所との付き合いがない	無回答
全体		40.8	33.7	25.4	0.2
年代	10代	33.3	11.1	55.6	0.0
	20代	25.4	35.8	38.8	0.0
	30代	30.8	33.8	35.3	0.0
	40代	40.3	36.4	23.4	0.0
	50代	44.1	40.7	14.4	0.8
	60代以上	58.5	24.6	16.9	0.0
	無回答	0.0	25.0	75.0	0.0

## 5 行政機関や支援団体での状況

行政機関や支援団体で「気軽に話せる人がいる」と答えた人の割合は13.8%、「気軽に話せる人がいない」は27.2%、「行政機関や支援団体とつながっていない」は57.6%となっています。



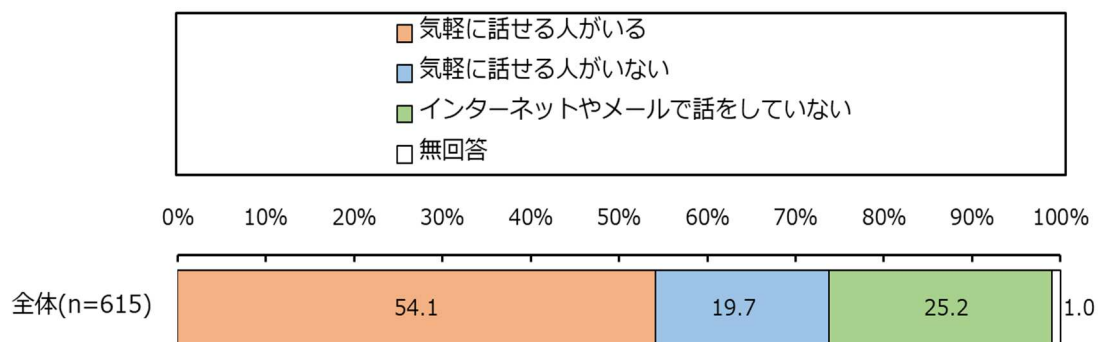
また、年代別（表8）にみると、20代の「行政機関や支援団体とつながっていない」が68.7%と最も高く、他の年代でも50%から60%台を占め、「気軽に話せる人がいない」では40代が33.1%と他の年代と比べて高い状況となっています。

表8 行政機関や支援団体で気軽に話ができる人の有無

		n=615 単位:%			
		話せる人がいる	話せる人がいない	行政機関や支援団体とつながっていない	無回答
全体		13.8	27.2	57.6	1.5
年代	10代	11.1	22.2	66.7	0.0
	20代	9.0	22.4	68.7	0.0
	30代	16.5	25.6	57.9	0.0
	40代	13.6	33.1	53.2	0.0
	50代	10.2	27.1	61.0	1.7
	60代以上	16.9	25.4	52.3	5.4
	無回答	25.0	0.0	75.0	0.0

## 6 SNSやメールでのつながりでの状況

Facebook や LINE などの SNS やメールでのつながりで「気軽に話せる人がいる」と答えた人の割合は 54.1%、「気軽に話せる人がいない」は 19.7%、「インターネットやメールで話をしていない」は 25.2%となっています。



また、年代別（表9）にみると、「気軽に話せる人がいる」では、20代が 68.7%で最も高く、「インターネットやメールで話をしていない」では、同じく 20代の 9.0%が最も低くなっていることから、他の年代と比べて、20代はネット上のつながりが強い傾向があります。

表9 SNS やメールでのつながりの有無

		n=615 単位:%			
		話せる人がいる	話せる人がいない	話をインターネットやメールでしていない	無回答
全体		54.1	19.7	25.2	1.0
年代	10代	66.7	0.0	33.3	0.0
	20代	68.7	22.4	9.0	0.0
	30代	48.9	25.6	25.6	0.0
	40代	48.1	20.8	30.5	0.6
	50代	56.8	20.3	22.9	0.0
	60代以上	56.2	11.5	28.5	3.8
	無回答	50.0	25.0	25.0	0.0

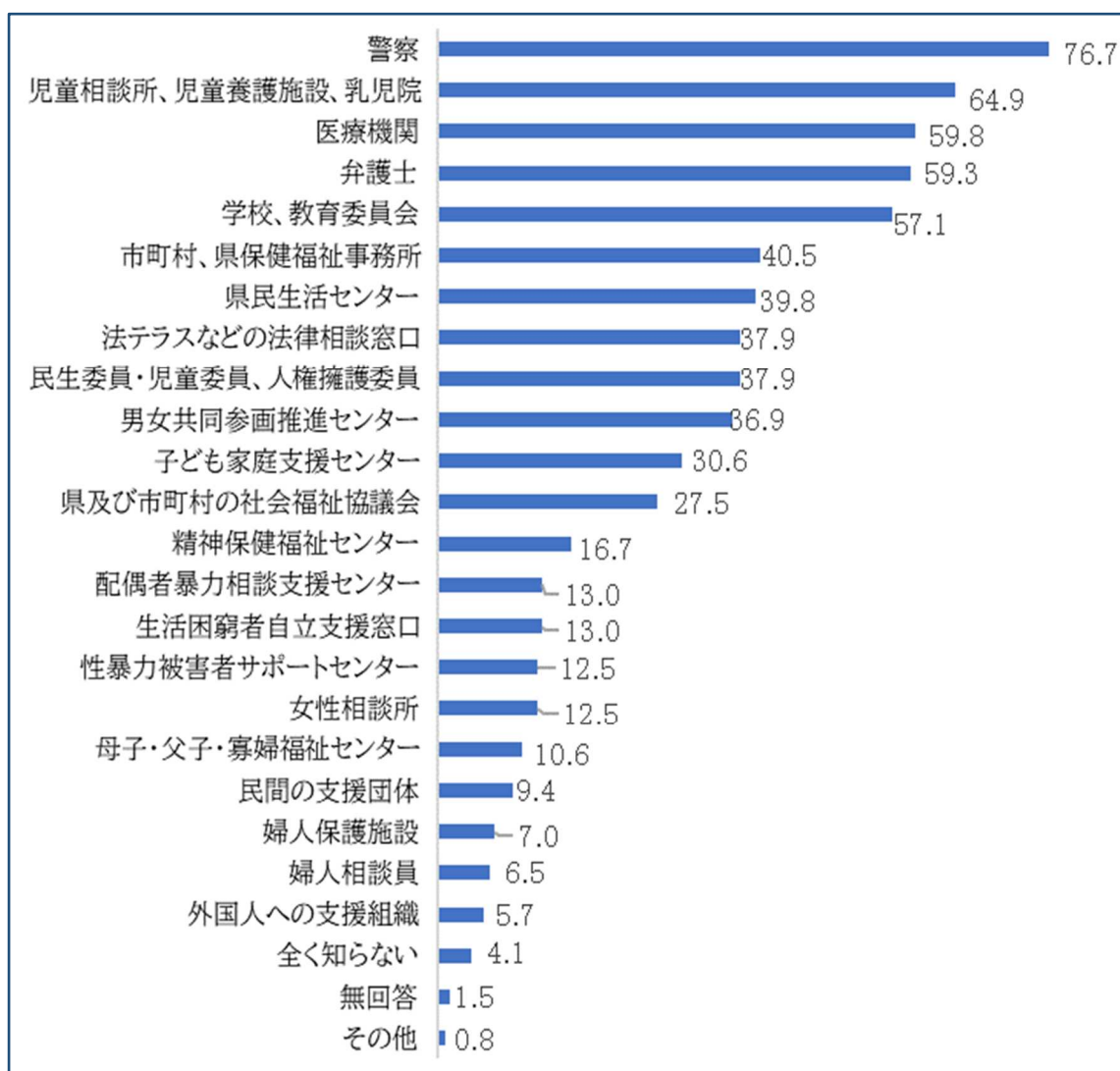


## 4. 悩みや困りごとの相談機関、専門家の認知度

悩みや困りごとなどを解決するために思い浮かべる相談機関・専門家をたずねたところ、「警察(76.7%)」が最も高く、「児童相談所、児童養護施設、乳児院(64.9%)」、「医療機関(59.8%)」、「弁護士(59.3%)」、「学校、教育委員会(57.1%)」と続いています。

表10 悩みや困りごとなどを解決するために思い浮かべる相談機関・専門家

(n=615 複数回答 単位：%)



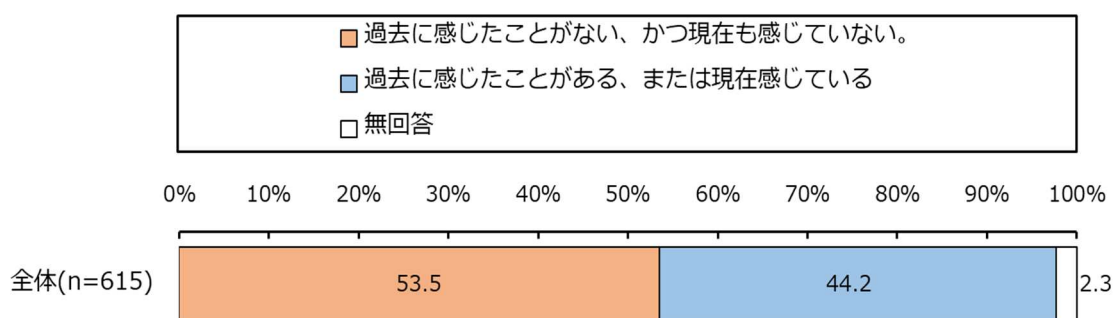
### 【その他の回答】

ハローワーク／若者サポートステーション／学校カウンセラー／保健師／  
地域包括支援センター／消費生活センター／ファミリーサポートセンター

## 5. 生きづらさの経験

### 1 「生きづらさ」の有無

生きづらさの有無についてたずねたところ、「過去に感じたことがない、かつ現在も感じていない」は53.5%、「過去に感じたことがある、または現在感じている」は44.2%となっています。



○年代別（表1 1）にみると、10代では「感じたことがない」が66.7%で最も高く「感じたことがある」では33.3%と最も低くなっています。30代では唯一「感じたことがある」の割合が「感じたことがない」よりも高くなっています。

○家族構成別にみると、母親と子どもの世帯と単身世帯で「感じたことがある」が半数を占めています。「感じたことがない」で割合が最も高いのは夫婦とその親の世帯の82.4%で、また、夫婦のみの世帯、夫婦と子どもの世帯、および夫婦と子どもと親の世帯でも半数以上となっています。このことから、大人の多い世帯では生きづらさを感じにくい傾向があります。

○世帯年収別にみると、「感じたことがある」と回答した割合が最も高いのは400万円～500万円未満の55.2%、最も少ないのは800万円～900万円未満の18.2%となっています。

表11 「生きづらさ」の有無についての状況

n=615 単位:%

		か過 つ去 現に 在も 感じ たこ とが ない 、	また 過去 に感 じた こと があ る、	無 回 答
全体		53.5	44.2	2.3
年代	10代	66.7	33.3	0.0
	20代	62.7	35.8	1.5
	30代	45.9	51.9	2.3
	40代	59.7	38.3	1.9
	50代	49.2	49.2	1.7
	60代以上	52.3	44.6	3.1
	無回答	50.0	25.0	25.0
家族 構成	夫婦のみの世帯	57.0	41.9	1.1
	夫婦と子どもの世帯	53.7	43.9	2.5
	母親と子どもの世帯	46.8	50.0	3.2
	夫婦とその親の世帯	82.4	17.6	0.0
	夫婦と子どもと親の世帯	55.7	41.4	2.9
	単身世帯	46.3	52.2	1.5
	その他	50.0	46.6	3.4
	無回答	75.0	25.0	0.0
世帯 年収	130万円未満	44.7	50.0	5.3
	130万円～200万円未満	47.1	47.1	5.9
	200万円～300万円未満	52.4	44.4	3.2
	300万円～400万円未満	51.3	48.8	0.0
	400万円～500万円未満	44.8	55.2	0.0
	500万円～600万円未満	54.3	45.7	0.0
	600万円～700万円未満	60.0	36.0	4.0
	700万円～800万円未満	57.8	42.2	0.0
	800万円～900万円未満	78.8	18.2	3.0
	900万円～1000万円未満	66.7	33.3	0.0
	1000万円以上	48.3	48.3	3.3
	無回答	52.9	41.2	5.9

## 2 「生きづらさ」を感じた理由（記述回答）

過去に生きづらさを感じたことがある、または現在感じていると回答した人（272人）へ、その内容を自由に記述していただきました。

回答は全体で211件(10代3件、20代19件、30代56件、40代46件、50代44件、60代以上42件、年代無回答1件)の書き込みがありました。

○すべての年代に共通し、金銭的な余裕がないことが生きづらさの要因と考えられます。

○10代から20代では、自身の性格や能力に焦点をあてたものがあげられています。

○30代では、仕事の悩み(対人関係、給料、能力など)、結婚の悩み(自身の結婚や周囲の結婚含む)、実親との悩みを抱える人と、子育て、家事、仕事をこなすことが難しいとの回答としてあがっています。

○40代では、「人間関係のトラブル」「子どもの障がいについて」など、よりサポートが必要な内容に変化が生じています。

○50代では、子育ての悩みに加えて「親の介護」が、金銭面では「借金」「ローン」も回答としてあがるようになっていきます。

○60代以上では、「家族との死別」「自身の老化」「夫の退職」「年金」などがありました。

※複数の回答は1つにまとめ、回答内容が長いものは要点をまとめております。

なお、今回の調査に関係の無い回答内容は含めておりません。

年代	内 容
10代	【対人関係】人とうまくつきあえない 【家 族】家族関係が上手くいかない 【将 来】学生のため進路の不安がある 【仕 事】都合の良いバイト先がない 【お 金】お金がない
20代	【対人関係】いじめ／義母の過干渉／周りの目が気になる／理解が得られない 【家 族】親からの結婚への圧力／親からの過干渉／親の老化／夫が家事や子育てを手伝ってくれない 【子 育 て】子どもの発達が遅いと言われた／子どもがいることでの制限 【仕 事】社会生活になじめない 【お 金】税金面／働いても生活にゆとりがない／金銭面のやりくり／物価の上昇／進学資金／自身の収入では家族を支えられない
30代	【対人関係】幼少期のトラウマ／遊ぶ友人が減っていく／いじめのトラウマで友達が作れず孤独である／周りの反応を気にしてしまう／頼れる人がいない／結婚を機に県内に引っ越し、知人が少なくなった／人への不信感／相談できる人間が少ない 【家 族】親の老後／幼いころの親からの虐待／シングルマザーのため、ひとりですべてをこなしているとき／家族で負担を分け合えない／夫から理不尽なふるまいを受けたとき／実父の自死／ほぼワンオペ 【子 育 て】子どもがいることでの就労制限／多子への支援がない／子育てや子どもの進路の相談先がわからない／子育ての大変さ／子どもに対し

30代	<p>てこんな自分が親で良いのだろうかと考えてしまう／仕事と子育ての両立がうまくできない／子どもが食べ盛りであるのにじゅうぶんに食べさせてあげられない(物価高のため)／子どもの体調不良で呼び出されるのはいつも母親であること／保育所へ迎えに行ったあとに職場へ戻り仕事をしなければいけない</p> <p>【仕事】給料の低さ、昇給が見込めない／転職／物覚えが悪く、努力しても身にならなかったとき／なんのために働いているのか分からない／上司からのパワーハラスメント／セクシャルハラスメント／忙しく、自分の時間が持てない／周りと比べて仕事ができない／相談できる場がない／働ける場所がない</p> <p>【健康】うつ病の治療／持病について理解を得られにくい／精神病の悪化／病気で働けなかったとき／仕事が原因の体調不良</p> <p>【お金】物価上昇に対して収入が増えない／自由に使えるお金がない／国から独身への金銭的支援がない／夫が家計に入れるお金が少なすぎる</p>
40代	<p>【対人関係】相談相手がいない／近隣トラブル／自分のコミュニケーション能力の低さ／グループに所属するのが難しい／子どもの有無を聞かれる</p> <p>【家族】家事すべてを当たり前のようにさせられ、感謝がない／結婚していたとき人として扱われていなかった／家族間でのお金の使い方の違い／離婚／夫との死別／親の介護／ひとり親であること</p> <p>【子育て】3人の子どもをひとりで看病しなければならなかったとき／支援学校に通う子どものこと／子どもに障がいがあること／子どもの悩みを子ども自身に親しい人に相談しないでほしいと言われ、解決することが難しかった／子どもが多く、教育のための資金になかなか回せない／子どもの不登校</p> <p>【仕事】収入は増えないのに支出は増えるばかりでなぜ働かなければいけないのか分からない／仕事を頑張っても暮らしはいつまでもつらい状況である／仕事がうまくいかない／障がいを持つ子どもに合わせた就労が難しい</p> <p>【健康】持病／過敏性腸症候群／体力が非常に低い</p> <p>【お金】お金がない／物価上昇／子どもを育てるためにお金を稼ぎに働きだしたのに、税金が上がり得られるものが少ない／税金について役場に相談に行ったが対応が冷たかったとき／年収130万円の壁／高校生になった子どもに手当がなくなった</p>
50代	<p>【対人関係】女性であることを否定されたとき／感謝されないとき／まじめにやって損をしたとき／理不尽な仕打ちにあったとき／近隣住民が時間に関係なく畑仕事をする／男性は何をしても許されると思う場面があったとき／友人との比較</p> <p>【家族】夫からの暴力／家族との死別／親の介護／家庭の中で居場所がない／病気になっても助けてくれる人がいない／親の介護と仕事の両立／子どもを望んだができなかった／夫と気が合わない／家族の持病</p> <p>【子育て】子育てのサポートが足りなかったとき／子どもの不登校／育休明けのワンオペ／育児の相談を相談員にしたが相手にされなかった</p> <p>【仕事】職場のいじめ／上司からのパワーハラスメント／子どもの看病のため休んだら解雇された</p> <p>【健康】自身の精神疾患／体力的な不安／身体的ハンディキャップ</p> <p>【お金】生活苦になったとき／夫、親の借金／ローン／子どものころの貧困／夫の経営する会社が倒産した</p>

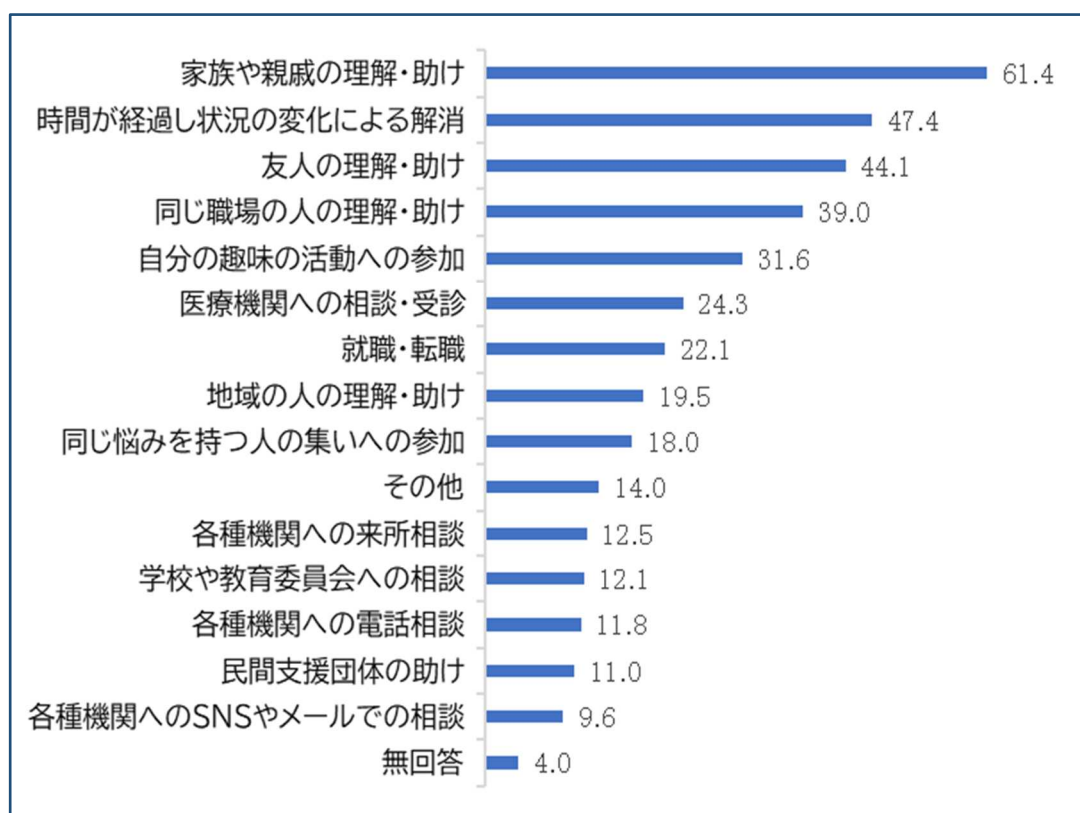
60代以上	<b>【対人関係】</b> 相談できる人がいない／近所との付き合い <b>【家族】</b> 単身である／親の介護／夫の無理解、無関心／夫との死別 <b>【仕事】</b> 仕事場の待遇／自営業の評判をネットで書かれた <b>【健康】</b> 孤独死を考えると／運転免許の返納を考えると生活が困難になる <b>【お金】</b> 年金の受給額や受給年齢の変更／夫からの急な生活費の減額／金銭面は相談しづらい／夫の退職／貯金／物価高
-------	--

### 3 「生きづらさ」を克服・解消するために必要なもの

「生きづらさ」を克服・解消するために必要だと思うものについてたずねたところ、「家族や親戚の理解・助け(61.4%)」が最も高く、「時間が経過し状況の変化することによる解消(47.4%)」、「友人の理解・助け(44.1%)」が続いています。

表12 「生きづらさ」を克服・解消するために必要なもの

(n=272 複数回答 単位：%)



#### 【その他の回答】

ゆっくりとした時間を過ごすこと／自分自身が自分を理解する／恋人(心から信頼できる人)／今の状況等を話せる場所／自分のスキルアップ、資格取得／SNSなどで同じ悩みをかかえている人の事例や発信を見て、自分が過去にかかえてきたことがなぜ消えないのかの理解・対処法を見つける／がまん／法整備／強くなる／好きなことだけする／自分が心から信頼できる存在／諦める／夫の理解、変化／賃金アップ／お金／常に自分と向き合う時間を大切にす／国や市町村の支援／価値観、固定概念の変化

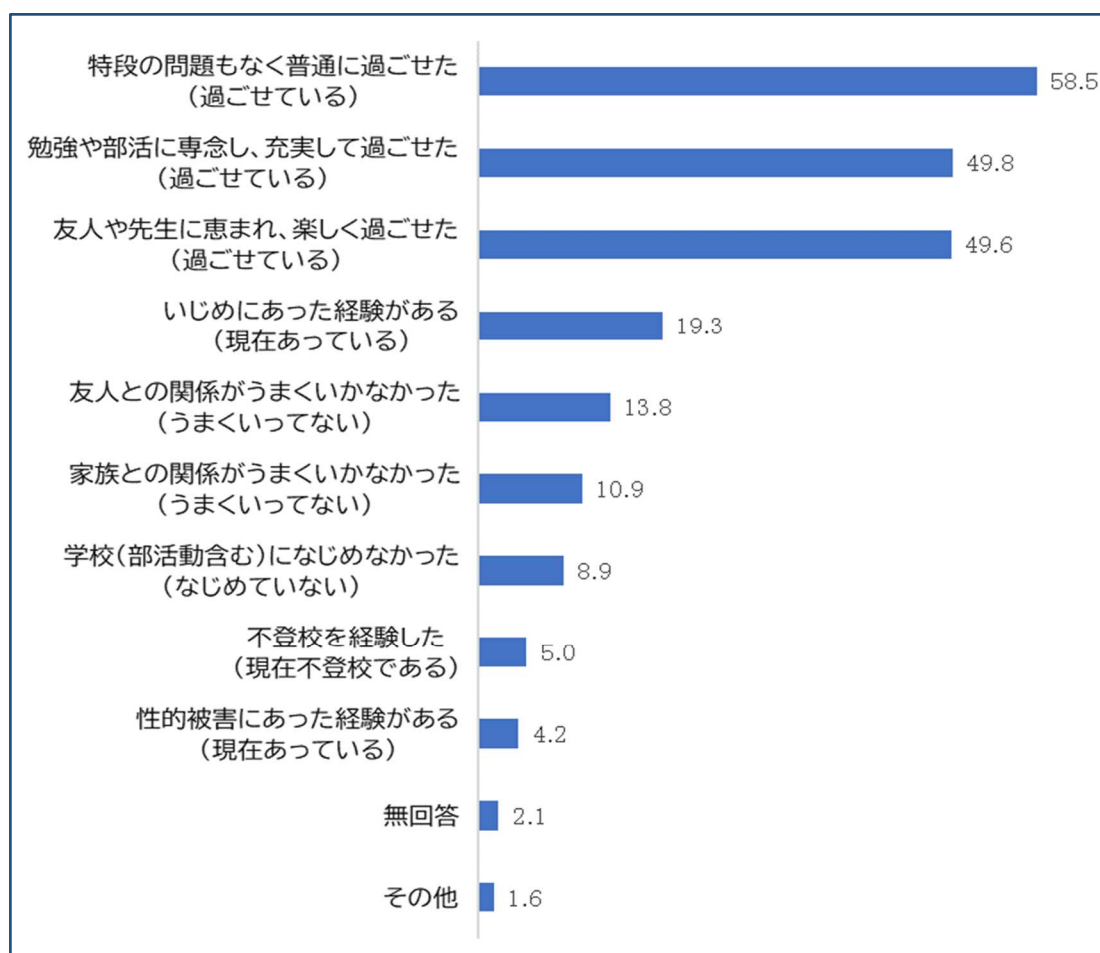
## 6. 学生時代の状況（過去・現在）

学生時代の状況(現在学生である場合は今の様子)については、「特段の問題もなく普通に過ごせた(過ごせている)(58.5%)」が最も高く、「勉強や部活に専念し、充実して過ごせた(過ごせている)(49.8%)」、「友人や先生に恵まれ、楽しく過ごせた(過ごせている)(49.6%)」と続いています。

一方、いじめの経験が約20%、学校になじめなかった(なじめていない)が約9%、不登校経験が5%、性的被害の経験が4.2%と、苦しい経験を強いられた(強いられている)結果となりました。

表13 学生時代の状況（過去・現在）

(n=615 単位：%)



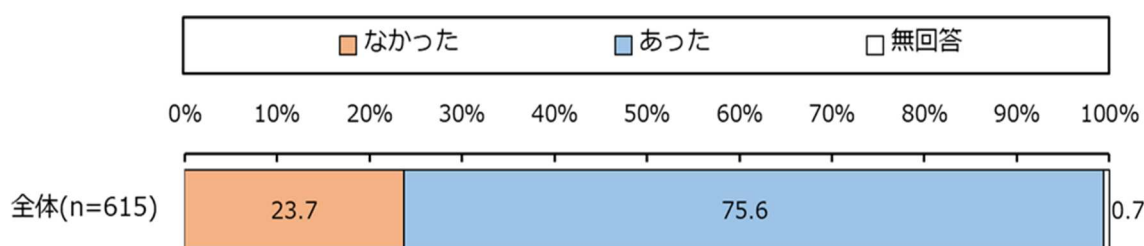
### 【その他の回答】

過去の経験を具体的に記載された方が10件

## 7. “過去”の悩みや困りごと

### 1 過去の悩みや困りごとの有無

過去に悩みや困りごとがあったかについては、「なかった」が23.7%、「あった」が75.6%となっています。



○年代別（表14）にみると、30代の「あった」と答えた割合が82.0%と最も高くなった一方、「なかった」でも30代が最も低い18.0%となるなど、30代から40代にかけて過去に悩みや困りごとを抱えた過去をお持ちでした。

○また、悩みや困りごとの数をみると、1人あたりの平均は4.0、年代別では、30代が他の年代に比べて高く、平均は4.7となっています。

表14 過去の悩みや困りごとの有無（年代別）

		n=615			
		なかった (%)	あった (%)	悩み・困りごとの平均個数	無回答 (%)
全体		23.7	75.6	4.0	0.7
年代	10代	33.3	66.7	3.0	0.0
	20代	23.9	76.1	3.8	0.0
	30代	18.0	82.0	4.7	0.0
	40代	19.5	79.9	4.1	0.6
	50代	22.9	77.1	4.1	0.0
	60代以上	35.4	63.1	3.0	1.5
	無回答	0.0	75.0	6.3	25.0

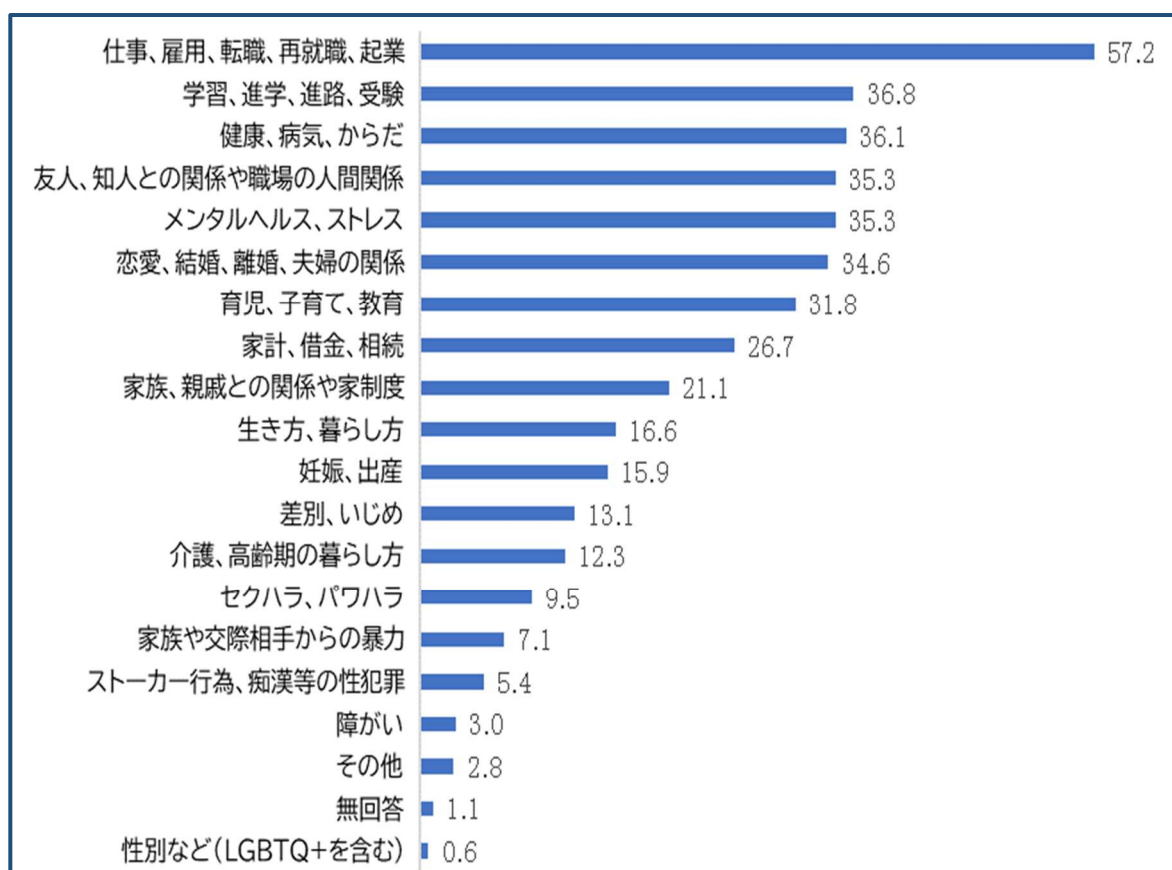


## 2 過去の悩みや困りごとの内容

過去の悩みや困りごとがあると回答した人（465名）が抱えた悩みや困りごとについてその内容をお伺いしたところ、「仕事、雇用、転職、再就職、起業(57.2%)」が最も高く、「学習、進学、進路、受験(36.8%)」、「健康、病気、からだ(36.1%)」、「メンタルヘルス、ストレス(35.3%)」および「友人・知人との関係や職場の人間関係(35.3%)」の順に続いています。

表15 過去の悩みや困りごとの内容

(n=465 複数回答 単位：%)



### 【その他の回答】

親の健康問題、経済的な問題／子どもに聴力の障害があるため専門の病院、学校など、遠すぎる、少なすぎることに悩んだ／過敏性腸症候群が続いている／人とのコミュニケーション／近隣トラブル、嫌がらせ／息子2人が結婚しないこと／親の介護で兄弟不仲／育児と仕事の両立／自分の見た目でも人の目を気にしていた／経済的なこともあり、やりたい事がやれていない

○年代別（表16）にみると、10代から20代までは「学習、進学、進路、受験」が、30代から60代以上では「仕事、雇用、転職、再就職、起業」が1位となりました。

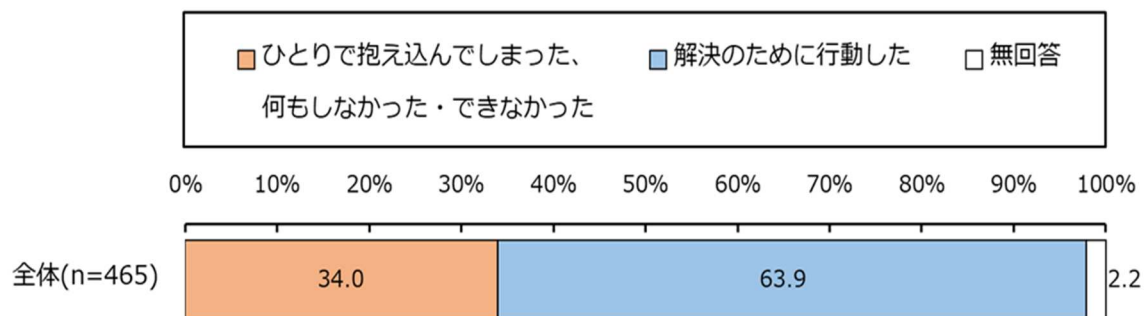
表16 過去の悩みや困りごとの内容（年代別）

n=465 単位：%

	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	年代無回答
仕事、雇用、転職、再就職、起業	57.2	0.0	52.9	73.4	56.9	54.9	43.9	100.0
学習、進学、進路、受験	36.8	100.0	60.8	45.0	38.2	28.6	12.2	66.7
健康、病気、からだ	36.1	33.3	33.3	34.9	38.2	35.2	36.6	66.7
メンタルヘルス、ストレス	35.3	0.0	3.9	4.6	2.4	4.4	0.0	0.0
友人、知人との関係や職場の人間関係	35.3	50.0	47.1	45.9	30.9	37.4	15.9	66.7
恋愛、結婚、離婚、夫婦の関係	34.6	0.0	9.8	28.4	22.0	37.4	31.7	33.3
育児、子育て、教育	31.8	16.7	23.5	37.6	39.8	36.3	26.8	100.0
家計、借金、相続	26.7	0.0	7.8	26.6	20.3	11.0	6.1	33.3
家族、親戚との関係や家制度	21.1	0.0	9.8	40.4	36.6	36.3	24.4	33.3
生き方、暮らし方	16.6	0.0	5.9	6.4	9.8	16.5	23.2	33.3
妊娠、出産	15.9	0.0	15.7	7.3	10.6	12.1	4.9	0.0
差別、いじめ	13.1	0.0	3.9	9.2	10.6	5.5	3.7	0.0
介護、高齢期の暮らし方	12.3	0.0	7.8	5.5	8.1	3.3	2.4	0.0
セクハラ、パワハラ	9.5	16.7	9.8	22.0	18.7	22.0	29.3	33.3
家族や交際相手からの暴力	7.1	50.0	45.1	46.8	29.3	33.0	23.2	66.7
ストーカー行為、痴漢等の性犯罪	5.4	33.3	21.6	11.9	17.1	12.1	3.7	0.0
障がい	3.0	0.0	17.6	24.8	13.8	15.4	12.2	0.0
その他	2.8	0.0	2.0	0.9	0.8	0.0	0.0	0.0
無回答	1.1	0.0	2.0	0.0	4.1	4.4	3.7	0.0
性別など(LGBTQ+を含む)	0.6	0.0	0.0	1.8	0.8	0.0	2.4	0.0

### 3 過去の悩みや困りごとを解決するためにとった行動

(1) 過去に悩みや困りごとを解決するための行動として、「ひとりで抱え込んでしまった、何もしなかった・できなかった」が34.0%、「解決のために行動した」が63.9%となっています。



〇年代別（表17）にみると、すべての年代で「解決のために行動した」の方が高く、年代があがるにつれてその割合は下がっています。また、「ひとりで抱え込んでしまった、何もしなかった・できなかった」は、20代以上のいずれの年代でも30%台となっています。

表17 過去の悩みや困りごとへの対応（年代別）

n=465 単位:%

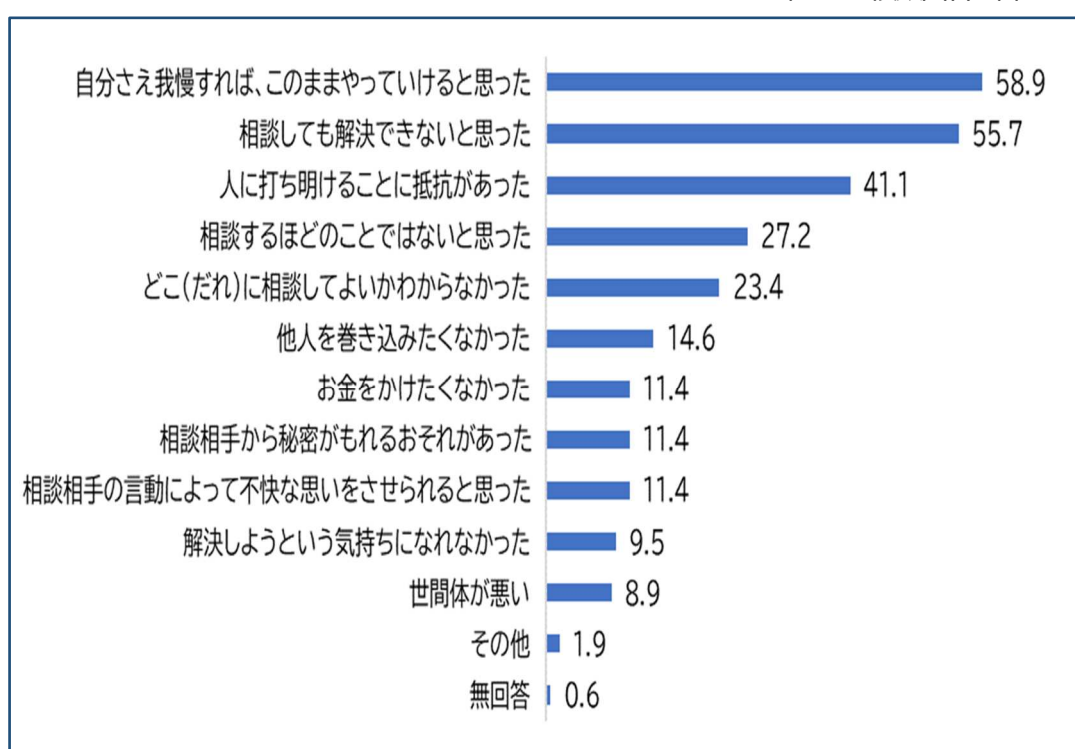
		ひとりで抱え込んでしまった、何もしなかった・できなかった	解決のために行動した	無回答
全体		34.0	63.9	2.2
年代	10代	0.0	100.0	0.0
	20代	33.3	62.7	3.9
	30代	37.6	61.5	0.9
	40代	34.1	65.0	0.8
	50代	30.8	65.9	3.3
	60代以上	36.6	59.8	3.7
	無回答	0.0	100.0	0.0

## (2) 過去の悩みや困りごとへの解決行動（しなかった・できなかった）

過去の悩みや困りごとに対し、ひとりで抱え込んでしまった、何もしなかった・できなかったと答えた人（158名）にその理由を聞いたところ、「自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思った(58.9%)」が最も高く、「相談しても解決できないと思った(55.7%)」、「人に打ち明けることに抵抗があった(41.1%)」となっています。

表18 過去の悩みや困りごとへの解決行動をしなかった（できなかった）理由

(n=158 複数回答 単位：%)



### 【その他の記述】

相談はあくまでも相談。解決にはならないと思っていた。／死ねば終わると思っていた／今のような男女間の格差を減らす時代でなかった。

〇年代別（表19）にみると、20代以上のどの年代も「自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思った」および「相談しても解決できないと思った」の割合が半数を超えています。特に20代では「人に打ち明けることに抵抗があった」も含めて高い割合となっています。

表19 過去の悩みや困りごとへの解決行動をしなかった（できなかった）理由

n=158 単位:%

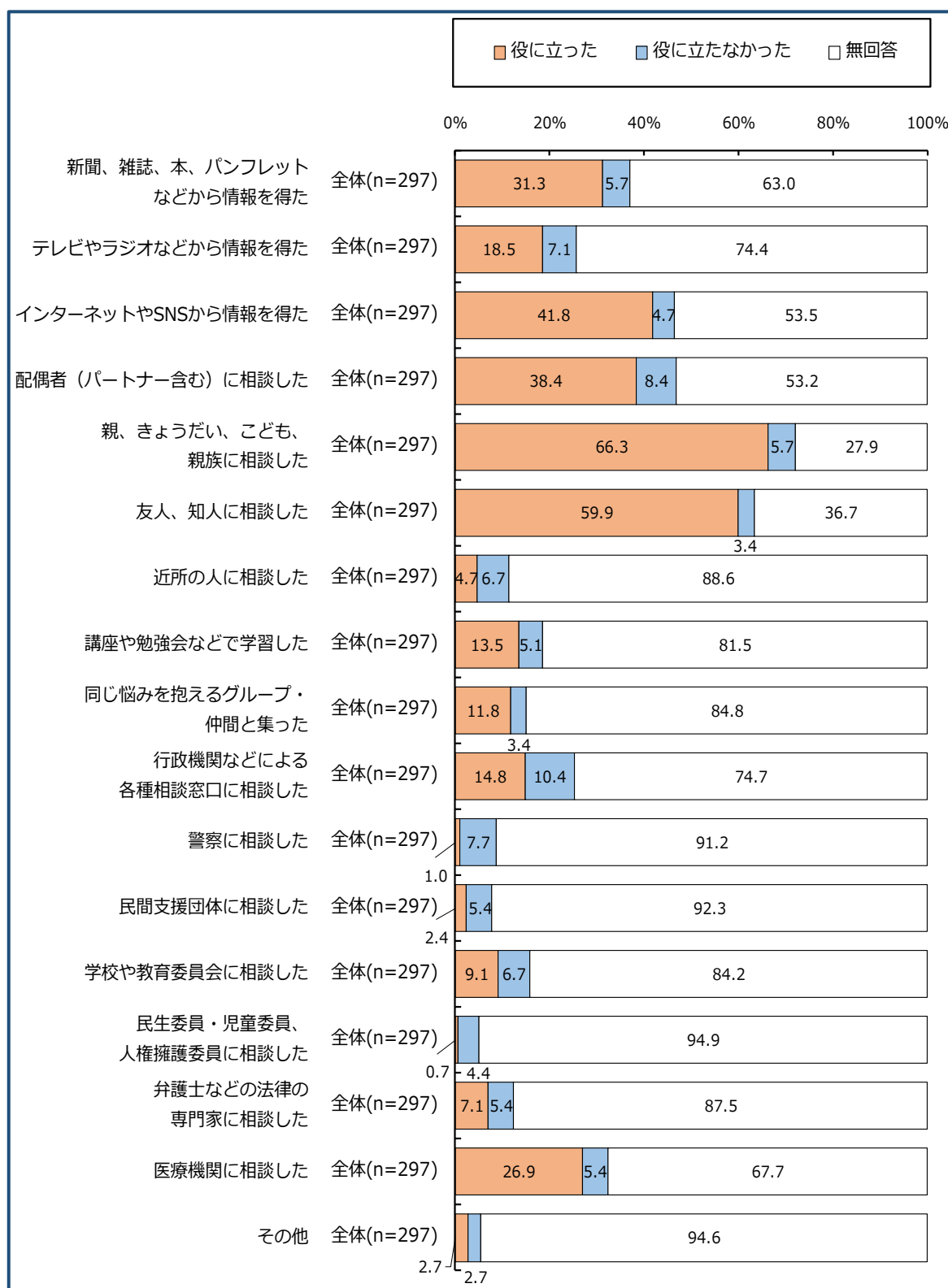
	全 体	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	無回答
自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思った	58.9	0.0	76.5	65.9	52.4	53.6	53.3	0.0
相談しても解決できないと思った	55.7	0.0	64.7	58.5	54.8	53.6	50.0	0.0
人に打ち明けることに抵抗があった	41.1	0.0	52.9	48.8	40.5	35.7	30.0	0.0
相談するほどのことではないと思った	27.2	0.0	41.2	26.8	21.4	28.6	26.7	0.0
どこ(だれ)に相談してよいかわからなかった	23.4	0.0	17.6	39.0	19.0	17.9	16.7	0.0
他人を巻き込みたくなかった	14.6	0.0	47.1	7.3	19.0	3.6	10.0	0.0
相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思った	11.4	0.0	11.8	9.8	7.1	21.4	10.0	0.0
相談相手から秘密がもれるおそれがあった	11.4	0.0	29.4	7.3	7.1	14.3	10.0	0.0
お金をかけたくなかった	11.4	0.0	11.8	12.2	11.9	10.7	10.0	0.0
解決しようという気持ちになれなかった	9.5	0.0	11.8	14.6	7.1	10.7	3.3	0.0
世間体が悪い	8.9	0.0	17.6	7.3	7.1	14.3	3.3	0.0
その他	1.9	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0
無回答	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	0.0

(3) 過去の悩みや困りごとへの解決の行動をした人の状況 (表20)

過去、悩みを解決するために行動した人 (297名) に、実際に行動した内容と満足度を伺ったところ、高いものは、「親、きょうだい、こども、親族に相談した(66.3%)」であり、次いで「友人、知人に相談した(59.9%)」、「インターネットから情報を得た(41.8%)」の順となっています。

表20 過去、悩みを解決するために実際に行動した内容とその満足度

(n=297 該当のみ回答 単位：%)



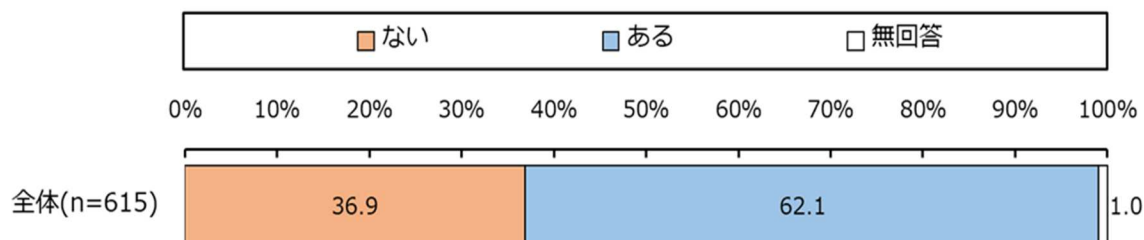
【その他の記述】

職場のハラスメント窓口／県外に出た／結婚相談所／マンションの管理人／電話占いの利用／  
上司に相談／メンタルリラクゼーション／

## 8. “現在” の悩みや困りごと

### 1 現在の悩みや困りごとの有無

「ない」が36.9%、「ある」が62.1%となっています。



- 年代別（表2 1）にみると、30代以上では「ある」の割合が高く、半数を超えている。特に50代の「ある」は70.3%と最も高く、10代の「ある」の44.4%と比べると25.9ポイントの差があります。
- 世帯の年収別にみると、「ある」と回答した割合が最も高いのは130万円～200万円未満の70.6%、最も低いのは800万円～900万円未満の33.3%となっています。
- 生きづらさを過去に感じたまたは現在感じているかどうかをみますと、感じたことがあるとした人で現在悩みが「ある」と答えた人は86.0%と非常に高い状況にあります。
- 過去に悩みがあったとした人が現在も悩みが「ある」と答えた人は73.5%、過去に悩みがなく現在も「ない」人も73.3%と高い状況にあります。
- また、悩みや困りごとの数について、1人当たりの平均は2.9となり、本報告書の7-1にある過去に抱えた悩みや困りごとの個数と比較すると、1.1個減少しています。

表21 現在の悩みや困りごとの有無

		回答数	ない (%)	ある (%)	悩み・困りごと 平均個数	無回答 (%)
全体		615	36.9	62.1	2.9	1.0
年代	10代	615	55.6	44.4	3.3	0.0
	20代		38.8	59.7	2.8	1.5
	30代		34.6	65.4	3.1	0.0
	40代		35.7	62.3	2.9	1.9
	50代		28.8	70.3	2.8	0.8
	60代以上		44.6	54.6	2.5	0.8
	無回答		75.0	25.0	—	0.0
世帯年収	130万円未満	615	36.8	63.2	—	0.0
	130万円～200万円未満		29.4	70.6	—	0.0
	200万円～300万円未満		39.7	57.1	—	3.2
	300万円～400万円未満		32.5	63.8	—	3.8
	400万円～500万円未満		32.8	67.2	—	0.0
	500万円～600万円未満		30.0	70.0	—	0.0
	600万円～700万円未満		42.0	58.0	—	0.0
	700万円～800万円未満		40.0	60.0	—	0.0
	800万円～900万円未満		66.7	33.3	—	0.0
	900万円～1000万円未満		37.5	62.5	—	0.0
	1000万円以上		35.0	65.0	—	0.0
	無回答		35.3	62.7	—	2.0
生きづらさ	過去も現在も感じたことがない	329	56.5	42.6	—	0.9
	過去に感じたまたは現在感じている	272	13.6	86.0	—	0.4
	無回答	14	28.6	57.1	—	14.3
悩み等	過去に悩み、困りごとがなかった	146	73.3	26.7	—	0.0
	過去に悩み、困りごとがあった	465	25.4	73.5	—	1.1
	無回答	4	50.0	25.0	—	25.0

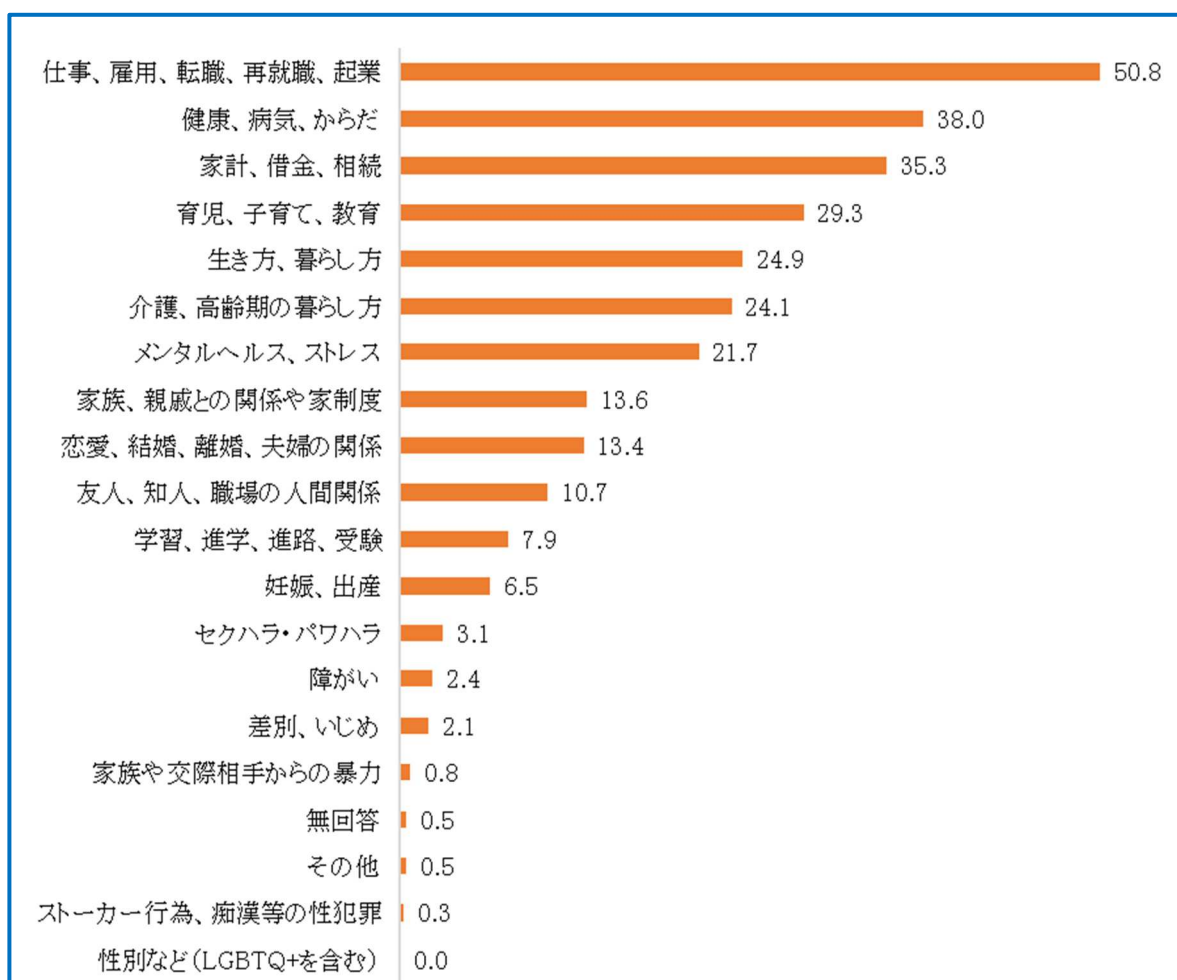


## 2 現在の悩みや困りごとの内容

現在、悩みや困りごとがあると回答した人（382名）が抱えている悩みや困りごとの内容を伺いましたところ、「仕事、雇用、転職、再就職、起業(50.8%)」が最も高く、「健康、病気、からだ(38.0%)」、「家計、借金、相続(35.3%)」の順となっています。

表22 現在の悩みや困りごとの内容

(n=382 複数回答 単位：%)



### 【その他の記述】

子どもの仕事／子どもの結婚、転職／子ども夫婦生活困窮／相続問題／  
 近隣トラブル、嫌がらせ、プライバシーの侵害／地域猫のために何が出来るか／  
 障がいのある子どもが一人になった時の将来／配偶者が亡くなったばかりでこの先のこと

〇年代別（表23）にみると、10代では「学習、進学、進路、受験」が、20代から40代では「仕事、雇用、転職、再就職、起業」が、50代から60代以上では「健康、病気、からだ」が1位となっています。

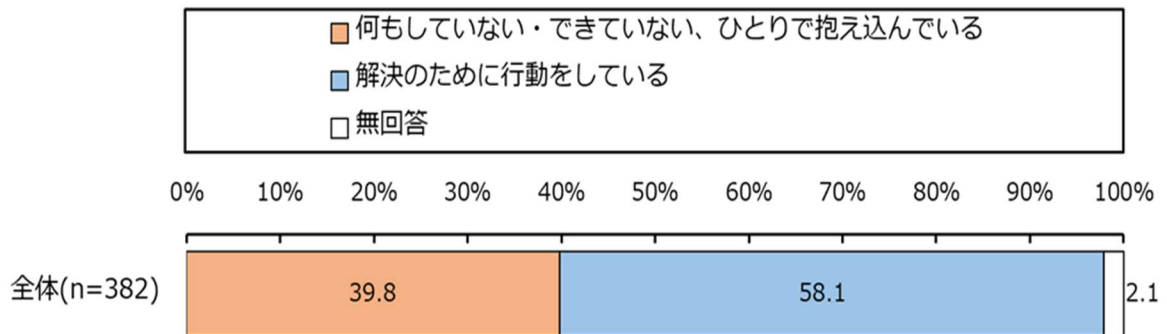
表23 現在の悩みや困りごとの内容（年代別）

※赤い枠は、各年代で回答上位となった3項目（n=382 複数回答 単位：％）

	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	年代無回答
仕事、雇用、転職、再就職、起業	50.8	25.0	60.0	72.4	50.0	44.6	28.2	100.0
健康、病気、からだ	38.0	25.0	25.0	28.7	34.4	47.0	50.7	100.0
家計、借金、相続	35.3	0.0	35.0	39.1	39.6	32.5	29.6	100.0
育児、子育て、教育	29.3	0.0	17.5	43.7	49.0	18.1	5.6	100.0
生き方、暮らし方	24.9	25.0	20.0	26.4	25.0	16.9	33.8	100.0
介護、高齢期の暮らし方	24.1	0.0	2.5	10.3	18.8	37.3	46.5	0.0
メンタルヘルス、ストレス	21.7	50.0	27.5	23.0	16.7	27.7	14.1	100.0
家族、親戚との関係や家制度	13.6	25.0	10.0	9.2	15.6	15.7	14.1	100.0
恋愛、結婚、離婚、夫婦の関係	13.4	25.0	27.5	18.4	12.5	7.2	5.6	100.0
友人、知人との関係や職場の人間関係	10.7	50.0	10.0	12.6	7.3	13.3	7.0	100.0
学習、進学、進路、受験	7.9	100.0	12.5	4.6	9.4	7.2	2.8	0.0
妊娠、出産	6.5	0.0	20.0	17.2	1.0	0.0	0.0	100.0
セクハラ、パワハラ	3.1	0.0	7.5	2.3	3.1	3.6	1.4	0.0
障がい	2.4	0.0	0.0	3.4	1.0	3.6	2.8	0.0
差別、いじめ	2.1	0.0	0.0	2.3	3.1	2.4	1.4	0.0
家族や交際相手からの暴力	0.8	0.0	0.0	0.0	2.1	1.2	0.0	0.0
ストーカー行為、痴漢等の性犯罪	0.3	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0
性別など(LGBTQ+を含む)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	0.5	0.0	2.5	0.0	3.1	6.0	9.9	0.0
無回答	0.5	0.0	0.0	0.0	2.1	0.0	0.0	0.0

### 3 現在の悩みや困りごとを解決するためにとった行動

(1) 現在の悩みや困りごとを解決するために行動をしているかどうかについては、「何もしていない・できていない、ひとりで抱え込んでいる」が39.8%、「解決のために行動した」が58.1%となっています。



〇年代別（表24）にみると、20代以上のいずれの年代でも、「解決のために行動をしている」人が50%から60%、「ひとりで抱え込んでいる」人も30%から40%となっており、過去の状況（P26、7-3-(1) 過去に悩みや困りごとを解決するための行動）と比較すると、解決への行動を起こす人が減少しています。

表24 現在の悩みや困りごとへの対応（年代別）

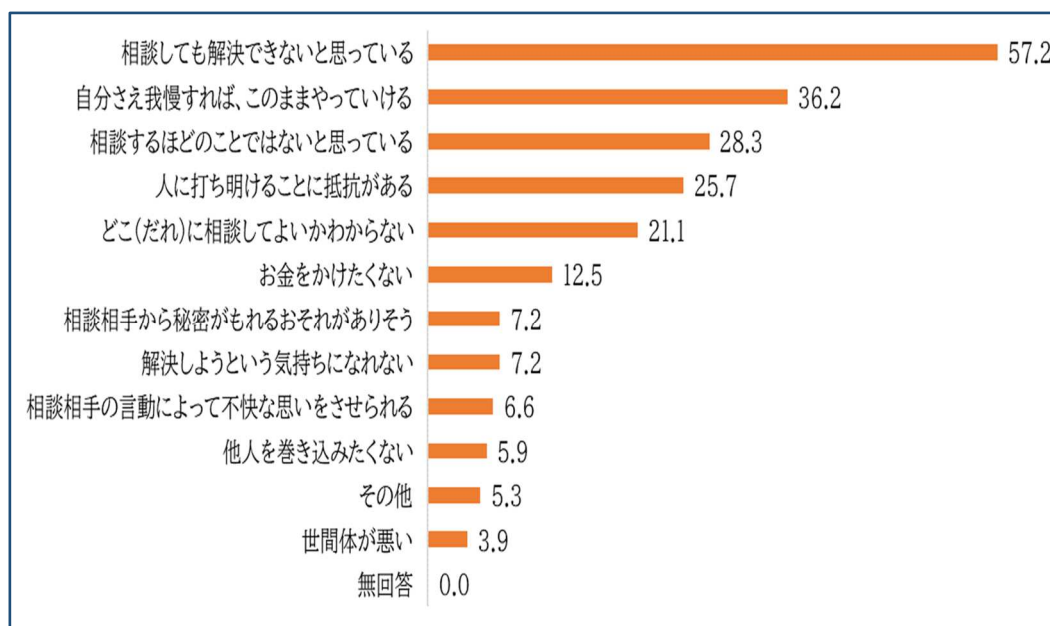
(n=382)

		何もしていない	(過去結果との比較)	行動解決のために	(過去結果との比較)	無回答
		(%)	(ポイント)	(%)	(ポイント)	(%)
全体		39.8	↑5.8	58.1	↓5.8	2.1
年代	10代	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	20代	47.5	↑14.2	52.5	↓-10.2	0.0
	30代	35.6	↓-2.0	60.9	↓-0.5	3.4
	40代	41.7	↑7.5	57.3	↓-7.7	1.0
	50代	34.9	↑4.2	60.2	↓-5.7	4.8
	60代以上	46.5	↑9.9	53.5	↓-6.2	0.0

(2) 現在の悩みに対して何もしていない・できていない、ひとりで抱え込んでいると答えた人(152名)にその理由を聞いたところ、「相談しても解決できないと思っている(57.2%)」が最も高く、「自分さえ我慢すればこのままやっていけると思っている(36.2%)」、「相談するほどのことではないと思っている(28.3%)」、「相談するほどのことではないと思っている(28.3%)」と続いています。

表25 現在の悩みや困りごとへの解決行動をしていない(できない)理由

(n=152 複数回答 単位：%)



【その他の記述】

休職中で仕事をやめようかどうか決心がつかないが、やめた後に働くべきか専業主婦でいるか  
決められない／まだ様子を見ているから／気力がわからない

○現在の悩みや困りごとへの解決行動をしていない(できない、ひとりで抱え込んでいる)理由について、過去の悩みに対する同じ理由の増減を比較したところ、表26のとおりとなっています。

その結果、人に打ち明けることへの抵抗が少なくなり、我慢せずに相談する傾向が推測できるものとなっています。

表26 現在と過去における悩み等を解決する行動をしなかった（できなかった）、していない（できない）理由の比較

	現在の悩み等 (%)	過去の悩み等 (%)	増減 (ポイント)
相談しても解決できないと思っている	57.2	55.7	↑1.5
自分さえ我慢すれば、このままやっていけるとしている	36.2	58.9	↓22.7
相談するほどのことではないと思っている	28.3	27.2	↑1.1
人に打ち明けることに抵抗がある	25.7	41.1	↓15.4
どこ(だれ)に相談してよいかわからない	21.1	23.4	↓2.3
お金をかけたくない	12.5	11.4	↓1.1
解決しようという気持ちになれない	7.2	9.5	↓2.3
相談相手から秘密がもれるおそれがありそうだから	7.2	11.4	↓4.2
相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思っている	6.6	11.4	↓4.8
他人を巻き込みたくない	5.9	14.6	↓8.7
その他	5.3	1.9	↓3.4
世間体が悪い	3.9	8.9	↓5.0
無回答	0.0	0.6	↓0.6

〇年代別にみると、20代の「自分さえ我慢すれば、このままやっていけるとしている」は57.9%で、他の年代に比べて高くなっています（表27）。

表27 現在の悩みや困りごとへの解決行動をしていない（できない）理由（年代別）

n=152 単位:%

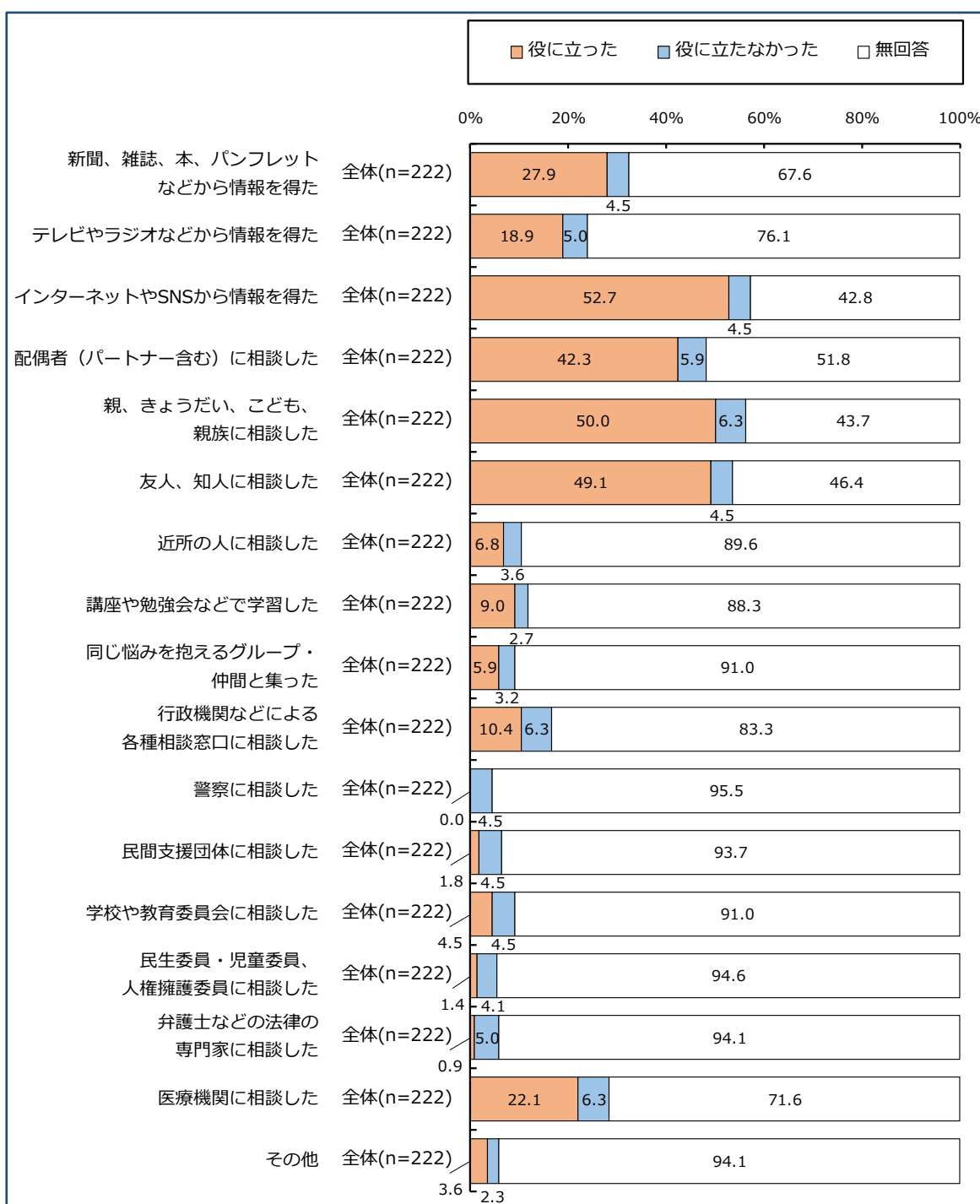
	全 体	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上
相談しても解決できないと思っている	57.2	0.0	63.2	64.5	55.0	58.6	48.5
自分さえ我慢すれば このままやっていけるとしている	36.2	0.0	57.9	35.5	30.0	34.5	33.3
相談するほどのことではないと思っている	28.3	0.0	26.3	35.5	30.0	31.0	18.2
人に打ち明けることに抵抗がある	25.7	0.0	31.6	29.0	22.5	24.1	24.2
どこ(だれ)に相談してよいかわからない	21.1	0.0	10.5	29.0	15.0	13.8	33.3
お金をかけたくない	12.5	0.0	21.1	12.9	10.0	10.3	12.1
解決しようという気持ちになれない	7.2	0.0	15.8	6.5	10.0	6.9	0.0
相談相手から秘密がもれるおそれがありそうだから	7.2	0.0	5.3	9.7	5.0	10.3	6.1
相談相手の言動によって 不快な思いをさせられると思っている	6.6	0.0	10.5	9.7	2.5	13.8	0.0
他人を巻き込みたくない	5.9	0.0	15.8	0.0	2.5	10.3	6.1
その他	5.3	0.0	0.0	6.5	10.0	0.0	6.1
世間体が悪い	3.9	0.0	0.0	6.5	2.5	6.9	3.0

### (3) 現在の悩みや困りごとへの解決の行動をした人の状況

現在、悩みを解決するために行動した人（222名）に、実際に行動した内容と満足度をお伺いしたところ、高いものは、「親、きょうだい、こども、親族に相談した(66.3%)」であり、次いで「友人、知人に相談した(59.9%)」、「インターネットから情報を得た(41.8%)」の順となっています。

表28 現在、悩みを解決するために実際に行動した内容とその満足度

(n=222 該当のみ回答 単位：%)



【その他の記述】

(役に立った)

救急隊／占い等に行った／自分で考えた／ジムに通って運動／職業訓練校／心のセルフケア  
／ケアマネに相談

(役に立たなかった)

会社相談／署名活動に参加した／不動産屋／学校での子どもの問題行動が多かった為勤務を  
時短にした。子どもは落ちついてきたが、家計は苦しくなった

## 9. 悩みや困りごとの解決方法

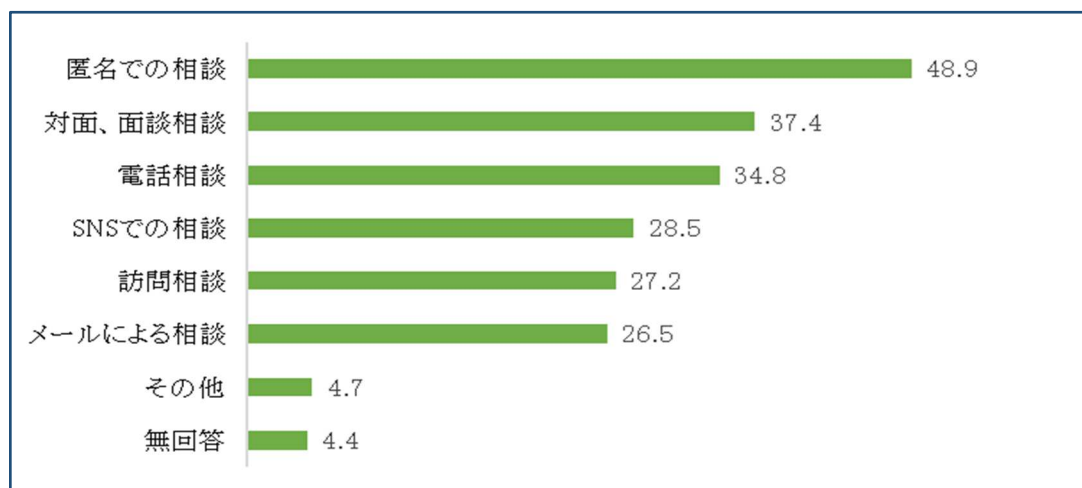
### 1 相談方法について

#### (1) 全体の回答状況

悩みや困りごとがあったときにあればよいと思った相談方法は、「匿名での相談(48.9%)」が最も高く、「対面、面談相談(37.4%)」、「電話相談(34.8%)」と続いている。

表29 希望する相談方法

(n=615 複数回答 単位：%)



#### 【その他の記述】

地域以外の人と相談／他人なので相談しない。相談したところで実際に助けにならない／チャット。なるべく早く解決したいので、返信を待つ時間に不安が増していかない様に／カウンセリング／無料で法律のことやプライバシーの侵害をされていることなど相談できて解決に向けて早急に改善される機関や窓口／他人が信用出来ない／軽く行けて、軽く話せる場／適切に答えてくれる機関／具体的な解決策を題示してくれる所。／カウンセラーや法律の専門家への気軽な相談／柔軟な子育てへの手助け(ないと相談にも行けない)／誰も何もしないでほしい／問題から離れられる避難所

#### (2) 年代別の回答状況

年代別(表30)にみると、10代から20代で「FacebookやLINEなどのSNSでの相談」が半数を占め、年代があがるにつれその割合は低くなっています。60代以上では、「電話相談」「相談に乗ってくれる機関・個人による訪問相談」および「対面、面談相談」の順に高く、直接会話ができる相談方法を選ぶ傾向があります。



表30 希望する相談方法（年代別）

(n=615 複数回答 単位：%)

	全 体	年代						
		10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	無回答
匿名での相談	48.9	55.6	62.7	57.1	44.2	51.7	36.2	50.0
対面、面談相談	37.4	0.0	32.8	44.4	38.3	33.9	37.7	25.0
電話相談	34.8	11.1	25.4	36.1	38.3	32.2	38.5	25.0
SNSでの相談	28.5	55.6	52.2	40.6	31.2	19.5	6.9	25.0
訪問相談	27.2	22.2	22.4	27.8	25.3	19.5	38.5	25.0
メールによる相談	26.5	44.4	22.4	36.1	33.1	28.0	9.2	0.0
その他	4.7	11.1	1.5	3.8	5.2	6.8	3.8	25.0
無回答	4.4	0.0	0.0	2.3	4.5	5.9	7.7	0.0

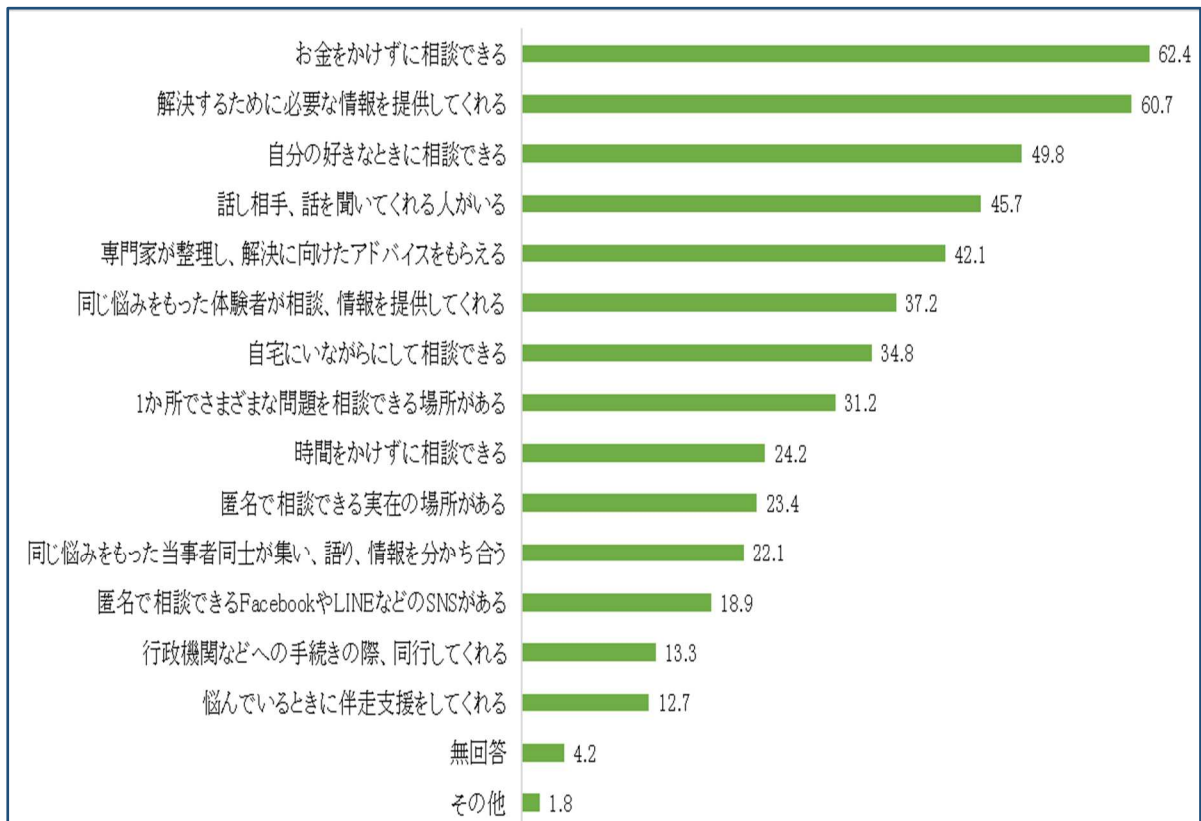
## 2 支援の内容について

### (1) 相談のあり方について

悩みや困りごとがあったときにあればよいと思った支援内容は、「お金をかけずに相談できる(62.4%)」が最も高く、「解決するために必要な情報を提供してくれる(60.7%)」、「自分の好きなときに相談できる(49.8%)」と続いている。

表31 あればよいと思う相談のあり方

(n=615 複数回答 単位：%)



【その他の記述】

第三者の話し相手／絶対に情報がもれずに守られる事／土・日や夜間も対応可／  
問題であることを認識するための生きづらさの共感。当事者視点での広報。

(2) 年代別の回答状況

年代別（表32）にみると、すべての年代で「解決するために必要な情報を提供してくれる」及び「お金をかけずに相談できる」が半数を超えています。

表32 あればよいと思う支援内容

(n=615 複数回答 単位：%)

	全体	年代						
		10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	無回答
お金をかけずに相談できる	62.4	55.6	70.1	70.7	63.0	58.5	53.8	50.0
解決するために必要な情報を提供してくれる	60.7	55.6	61.2	62.4	66.2	63.6	50.0	50.0
自分の好きなきに相談できる	49.8	66.7	67.2	59.4	50.0	42.4	36.2	50.0
話し相手、話を聞いてくれる人がいる	45.7	66.7	53.7	51.9	41.6	41.5	41.5	75.0
専門家が整理し、解決に向けたアドバイスをもらえる	42.1	0.0	32.8	49.6	40.3	50.0	37.7	25.0
同じ悩みをもった体験者が相談、情報を提供してくれる	37.2	33.3	41.8	38.3	41.6	35.6	30.0	50.0
自宅にいながらにして相談できる	34.8	11.1	37.3	39.8	31.8	33.9	34.6	25.0
1か所でさまざまな問題を相談できる場所がある	31.2	22.2	29.9	39.1	30.5	32.2	24.6	25.0
時間をかけずに相談できる	24.2	11.1	28.4	27.8	26.6	19.5	21.5	0.0
匿名で相談できる実在の場所がある	23.4	22.2	22.4	24.8	24.0	22.9	21.5	50.0
同じ悩みをもった当事者同士が集い、語り、情報を分かち合う	22.1	11.1	25.4	26.3	24.0	18.6	16.9	50.0
匿名で相談できるFacebookやLINEなどのSNSがある	18.9	22.2	29.9	24.1	23.4	15.3	5.4	25.0
行政機関などへの手続きの際、同行してくれる	13.3	11.1	9.0	13.5	10.4	14.4	17.7	25.0
悩んでいるときに伴走支援をしてくれる	12.7	0.0	7.5	16.5	12.3	16.9	9.2	0.0
その他	1.8	0.0	0.0	1.5	4.5	1.7	0.0	0.0
無回答	4.2	0.0	0.0	3.8	4.5	5.1	6.2	0.0

## 10. 教育・啓発の推進

### 1 推進の必要性

#### (1) 教育・啓発の必要性

女性であることのこまりごとをなくすための教育・啓発を推進する取り組みは、「必要があると思う」が94.8%と圧倒し、「必要はないと思う」は2.8%にとどまっています。

年代別（表33）にみても、すべての年代で「必要があると思う」とした割合は80%～90%と非常に高くなっています。

表33 教育・啓発の必要性（年代別）

(n=615 単位：%)

		必要はないと思う	必要があると思う	無回答
全体		2.8	94.8	2.4
年代	10代	11.1	88.9	0.0
	20代	1.5	98.5	0.0
	30代	2.3	97.0	0.8
	40代	4.5	93.5	1.9
	50代	1.7	96.6	1.7
	60代以上	1.5	92.3	6.2
	無回答	25.0	50.0	25.0

#### (2) 教育・啓発を始める時期

教育・啓発を始める時期についてたずねたところ、「小学生の時期(57.5%)」が最も高く、「中学生の時期(29.8%)」、「未就学の時期(12.2%)」、「高校生の時期(9.1%)」と続いています。

年代別（表34）にみると、10代と30代以上では「小学生の時期」と答えた割合が50%～60%を占め集中していますが、20代では「小学生の時期」が47.0%、「中学生の時期」が34.8%、「高校生の時期」が19.7%と他の年代よりも分散しています。

表34 教育・啓発を始めるにふさわしい時期（年代別）

(n=615 単位：%)

		小学生の時期	中学生の時期	未就学の時期	高校生の時期	その他	無回答
全体		57.5	29.8	12.2	9.1	2.1	0.7
年代	10代	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20代	47.0	34.8	7.6	19.7	1.5	0.0
	30代	62.8	29.5	13.2	10.9	1.6	0.8
	40代	59.7	29.2	12.5	4.9	0.0	0.0
	50代	57.0	28.1	7.9	8.8	2.6	2.6
	60代以上	56.7	28.3	17.5	7.5	5.0	0.0
	無回答	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0

【その他の記述】 大学入学、社会人／一度やってもだめなのでその都度実施

## 2 教育・啓発すべき項目

特に教育・啓発すべき項目について、「いじめ防止(78.6%)」が最も高く、「からだの発達、月経(65.5%)」、「性被害防止(62.3%)」と続いています。

年代別（表35）にみると、「いじめ防止」についてはすべての年代で70%を超え、特に60代以上では84.2%と非常に高い状況にあります。

表35 教育・啓発すべき項目

(n=615 単位：%)

	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	無回答
いじめ防止	78.6	75.0	74.2	77.5	77.8	77.2	84.2	100.0
からだの発達、月経	65.5	75.0	63.6	78.3	68.1	60.5	53.3	100.0
性被害防止	62.3	100.0	53.0	67.4	69.4	59.6	52.5	100.0
避妊、中絶	59.7	87.5	63.6	69.8	66.7	55.3	40.0	100.0
虐待・DVの防止	57.5	37.5	53.0	58.9	59.7	60.5	53.3	100.0
性感染症	49.7	75.0	50.0	59.7	55.6	41.2	38.3	50.0
社会のサポート体制	48.5	12.5	39.4	54.3	44.4	53.5	49.2	100.0
子どもの権利	46.7	37.5	31.8	51.9	52.1	45.6	43.3	100.0
女性の権利	44.1	50.0	31.8	45.0	50.0	43.0	42.5	100.0
働くことの意義	42.2	37.5	36.4	39.5	45.1	40.4	46.7	50.0
その他	4.5	0.0	3.0	3.9	5.6	7.0	1.7	50.0
無回答	3.1	0.0	0.0	3.1	2.1	5.3	4.2	0.0

【その他の記述】

人は大切な存在であるということ／学ぶことの意義／男女平等／人権教育／税金／お金の使い方／人間の尊厳／LGBTQ+等の理解推進／人としての道徳心、精神教育／古い考えを持っている大人たちへの教育

## 11. その他（自由記述）

県内のお住まいの女性の皆様が、困りごとを抱えることなく生活していくためにあってほしいと思う制度、仕組み、政策などについて、150名の方から回答いただき、年代毎にまとめました。

複数の回答は1つの項目としてまとめ、また、回答内容が長いものは要点をまとめております。

なお、今回の調査に関係の無い回答内容は含めておりません。

### 1 10代の方の回答

#### 【政策・仕組み】

- ・子どもを、おそい時間まであずかることが出来る仕組み
- ・気軽に相談出来る環境

#### 【社会・職場等への要望】

- ・人が多く密集したような状態だとトラブルに巻き込まれやすくなってしまうと思うので、電車の車両数を増やす、女性専用車両の設置が必要

### 2 20代の方の回答

#### 【政策・仕組み】

- ・子どもを預けるショートステイなどは事前の申し込み予約制などで、急に使えないので気軽に、いつでも預けられる仕組み
- ・匿名で相談できる場所づくり、自宅で相談できるしくみ
- ・オンライン上で医師と診療ではない繋がりができる仕組み
  - 近所に産婦人科が少ない
  - （妊娠中の）不安なことや心配ごとがあっても気軽に行けない
  - ネットの情報が本当の情報か分からないので余計に心配になる
- ・いじめ対策の1つとして、性別関係なく、小学生のうちから、学校で道徳の授業に力を入れるべき（個性を尊重し、人の気持ちを考え、相手を思いやる心を養うことが大事）

#### 【社会への要望】

- ・子どもが安全に遊ぶことができる公園なども多くあるといい
- ・夜になると暗すぎて恐怖を覚えるので、街灯を増やしてほしい
- ・生理用品を無料で配布する機器が女子トイレの個室に設置してほしい
- ・職場等でのハラスメント撲滅、メンタルヘルス不調への理解促進、女性が困りごとや悩みを相談しやすく働きやすい環境づくりへの取り組みをしてもらいたい

#### 【その他】

- ・出産費用の公費負担や結婚の祝い金等を充実してほしい
- ・不妊治療の専門機関がふえること

### 3 30代の方の回答

#### 【政策・仕組み】

- ・子育てをしながら、無理なく、正社員を目指せる就職案内や企業情報の提案をしてくれる場所や制度
  - 土日、祝日も相談できる
  - 気軽に相談できる LINE 等の SNS サービス
  - 時間制限なく、言いたい事がまんぞくいくまで言える相談
- ・経済的な理由で子どもをあきらめることがないようにする支援の仕組み
- ・働く女性向けのオンラインキャリアカウンセリング
- ・独身女性のライフ&ワークバランスの整え方の研修会
- ・ベビーシッター利用時の支援制度
- ・健康保険証や医療費の受給者証の色の統一（色で家庭や個人の情報が分かってしまう）
- ・子どものうちから、「お金」に関して身につけておくべきことを教える教育制度
- ・離職中でも再就職しやすい仕組み
- ・保育所、学童に入りやすい、預けやすい仕組み
  - 共働きで子どもが体調悪いと、仕事どころでなくなりとても大変
  - 仕事を休むことができない日の子どもの預かり
  - 平日の保育所、学童での預かり時間の延長
- ・近所トラブルの相談窓口
- ・過去のトラウマの話をしてもらえる仕組み（トラウマで今もできないことが多い）
- ・独身女性への金銭的補助制度
- ・女性のガン検診、年齢関係なく、毎年受診できる仕組み
- ・「離婚」支援制度の構築

#### 【社会・職場等への要望】

- ・土日に利用できる児童館が地域にあること
- ・離婚しても、一人の女性が家族を安心して養っていける環境
- ・男性の家庭へのサポートの仕方や関わり方を教える場所
- ・主婦にも家庭でできる仕事で収入を得られる社会
- ・地域医療、特に、子どもをすぐに診てもらえる小児科が増えてほしい
- ・小学生の高学年～でも気軽に居る事ができる場所（家で留守番しなくても良い、気軽に居る事が出来る場所）
- ・女性特有の体調不良で仕事を無理せず休みやサポートを受けることのできる社会
- ・非正規雇用の最低賃金は上がるが、正規雇用の給料は変わらない。非正規職員だけでなく正規職員の給料の見直しが必要
- ・正規職員の時短勤務が拡充してほしい
- ・公園や子どもの遊び場が身近にほしい
- ・精神的な障害があっても働ける場所が身近にあってほしい
- ・車を運転できない（無免許）だからと排除されない
- ・社会全体の意識に、子どものことは母親がするべきという考えがまだあることが問題
- ・職場でセクハラ被害にあった女性が泣き寝入りにならないよう事業所への罰則制度の創設

#### 【その他】

- ・大人になっていろいろな仕事があることを知った。そのために必要な資格とか大学卒が必要とか、もっと早く、小学生、中学生の時に知っていれば（自分の）未来が違った。
- ・格安の女性限定スポーツジムや趣味工作教室があってほしい
- ・悩みを吹き飛ばせるようなストレス発散できる楽しい場所がたくさんあるとよい
- ・子どもたちに対する、いじめ、性教育、SNS 利用等学べる場があるとよい

## 4 40代の方の回答

#### 【政策・仕組み】

- ・全ての公共の場を親子が不安を抱えることなく利用できる仕組み
- ・「相談」「カウンセリング」は特別なことではなく、必要なものがあるから買い物に行くような気軽な感覚で利用できるよう、悩みごとの種類による対応機関の周知、総合的な窓口の設置および周知、女性ならではの困りごとが地域でも横のつながりもしっかりとある県全体でサポートしてくれるような仕組み
  - 相談できる場所をスーパーやモールに常設が効果的
  - 土、日、祝日でも相談できる場所があると安心につながる
  - 匿名、自宅で相談できる電話、メール、チャットも相談へのハードルが低くなる
- ・女性がスキルアップ、資格取得するための講座や通信教育等の金銭的支援の創設・拡充
- ・児童扶養手当における収入による受給資格要件の撤廃
- ・児童館が少なく、増設が必要
- ・母親が子育てをしながらちゃんと働けるような政策
- ・女性のための制度や仕組みとして、何があるのか不明。もっと行政から発信を希望
- ・児童手当、児童扶養手当は、毎月支給される仕組みに。
- ・女性の生活を支援できる学校や訓練できる人材育成や組織
- ・シングルマザーに団地だけでなく、空き家バンク物件の提供、優遇
- ・元夫に対する養育費を強制徴収できる仕組み
- ・子どもが平等に勉強をできる制度

#### 【社会・職場等への要望】

- ・気軽に使える運動公園や運動施設がほしい
- ・歩きやすい歩道の整備事業
  - 歩道が狭く、小さな子どもを連れて散歩したりできなかった過去がある
- ・子育て世代の母子が「住みやすい街づくり」をしてほしい
- ・車社会の中、高齢の方で車に乗れない方、運転ができない方のための交通網の整備
- ・SNS の普及もあり、人と人が出会う機会が少ないので、サークルや相談会など、定期的にコミュニケーションがとれる場があると良い
- ・学生及び職場での生理休暇の公休・取得義務化

#### 【その他】

- ・性差による長所や短所を理解すべきで、（男性も女性もトランスジェンダーも）短所を補い合う努力をすることが必要
- ・子どもへの支援は、世帯の所得の高低で支援の有り無しを決めないでほしい
- ・障がい児を持つ母親が働きにくい、障害のことを相談して嫌な思いをしてしまい、引きこもってしまう状況を把握したことがある
- ・3人以上の子どもがいる家庭には年収に関係なく学費などの助成が受けられるサポートがあるとよい

## 5 50代の方の回答

### 【政策・仕組み】

- ・メンタルで気軽に相談できる行政機関やすぐに受診できるクリニックの創設（現状より拡充）
- ・24時間、365日、全てでオールマイティに相談できる場所づくり  
→1か所でさまざまな悩みや問題を相談や解決方法やアドバイスをしてくれる
- ・色々な情報収集・相談・助けを求めることができる機関・専門家について、それぞれがどういったことを対応してくれるところなのか、具体的にわかる仕組み（調べやすく、分かりやすく）  
→1か所でなくても相談別に相談場所を案内してもらえる仕組み  
→公的機関や行政窓口というと気が引けてしまうので民間の力を借りてはどうか
- ・女性が女性に相談できる仕組み  
→気軽に相談できるイメージがなく、相談できる場所も知らないの、CMなど、目につくところで、女性向きの明るいPRが必要
- ・安心してカウンセリングが受けられる医療制度(助成や窓口の設置)
- ・保育施設の充実
- ・子どものことを相談できる学校以外の相談機関設置
- ・学校で「金融」について教えることを制度化
- ・ベーシックインカムの導入

### 【社会・職場等への要望】

- ・地域における一人暮らしの高齢者のサポート体制づくり
- ・子育てにあたり孤立することのないよう自由に交流、情報交換ができる居場所づくり
- ・地域内、高齢者が孤立することのないよう地域の見守り
- ・他県から移住した女性を孤立させない。移住者に優しい地域にすべき
- ・男女の出会いの場、もしくは適齢期で適切に”恋愛”ができるように促せる機会の創出
- ・年をとり女性でも働く場所が多数あってほしい。体は元気で体力があっても資格がないと働けないのではもったいない。

### 【その他】

- ・相談できるしくみがあっても知らない方も多いので、仕組みの周知を今まで以上に図ってほしい
- ・子どもたちが幸せに育っていくために、お母さんが笑って生活できる環境を整えていただけたらと思う
- ・その時に若者世代の方が心に余裕を持って生活できる世の中になって頂けたらと思います。子どもの時の幸せだった、安心できたという記憶はとても大切で大人になってからも自分の支えになると思う
- ・特別なDVや貧困層の女性だけが困っているわけではない。年収も一定あるが、職場の人手不足による長時間労働、子どもの大学費用など不安や負担は多い。
- ・子どもの学費、・電気代やガソリン代・年収制限や世帯年収にかかわらず、世帯一律の支援を実行してほしい
- ・保育士と幼稚園教諭の資格がありますが役立てたい
- ・男性社会に対する女性への偏見（女性差別）を無くす



## 6 60代以上の方の回答

### 【政策・仕組み】

- ・相談機関同士のつながり。どこかに相談したら、どこかを紹介してくれるなど、チームで解決支援できる仕組み
  - 自分にとっての”この人”を知ることの安心感が大切
- ・メンタルの痛みを話せる機関や方法、・カウンセリングの場の充実施策
- ・相談機関の人材育成
  - ボランティアに頼りすぎない仕組み
  - 女性の気持ちに寄り添うことの出来る、専門知識を持った経験豊富な相談員の養成
- ・土、日、時間外に相談できる場所づくり
- ・生きたい大学をあきらめる(あきらめさせる)のではなく、無利子で援助できるように親が誰でも、条件なしで申し込める制度
- ・親の介護、相続、遺された不動産(農地の活用)の相談が総合的に気軽にできる仕組み
- ・役場などに気軽に色々相談できる「なんでも課」創設
  - 現在の行政の窓口は「敷居が高い」
- ・女性の政治参画を増やすための「クオータ制」の導入
- ・市町村で配られている広報に載せてもらいたい。どこに相談することが解らない人のためにも気兼ねなく聞いてもらえる身近な場所づくり

### 【社会・職場等への要望】

- ・夫の暴力などで困っている親子が居たらすぐに避難できる場所を各地につくってほしい。格安のアパート、空き家活用。できれば警察署や交番などの近くが理想
- ・老人になってスーパーが無いので運転免許返納後はどうすれば良いのか悩み中
- ・体調が悪いので、どうしてもタクシーを使うしかないが、外出が不便
- ・アンコンシャスバイアスについての学習とともに、意思決定の場に女性が出られる社会の取り組み
- ・より身近な所にいる民生委員や町の保健師などが全戸訪問し、玄関など負担のない範囲で対面的接触があることで、サポートをしてくれる存在を知り安心につながる

## 山梨県女性福祉サポートアンケート調査

調査受託業者 株式会社ベルキャリアール甲府営業所

〒400-0031 山梨県甲府市丸の内 2-7-23

フリーダイヤル：0120-337-624

事業担当課 山梨県 子育て支援局 子ども福祉課

〒400-8501 山梨県甲府市丸の内 1-6-1

電話：055-237-1111 (山梨県庁代表番号)